

2007年3月期
決算説明会

2007年5月1日
ヤマハ株式会社

2007/3期 決算の概要



➤ 2007/3期は対前期増収営業増益。当期利益は特別損失の増加で
ほぼ前期並みの水準

- 3Q公表値(2/7)に対しては増収営業増益
- 楽器は対前期、対3Q公表値とも増収増益
- 電子機器・金属は、携帯電話用音源LSIの数量減により、対前期減益
継続
- リビングはシステムキッチン伸長し、対前期増収。営業利益は前期並み
- 2008/3期でのリゾート施設譲渡に伴う減損実施、海外工場解散等で
100億円を超える特別損失計上
- 期末棚卸資産残高は、為替影響(20億円)を除けば仕掛品、材料を中心
に3Q公表値に対し実質37億円の増加

2007/3期 業績概要



▶ 対前期増収営業増益。リゾート減損、海外生産子会社解散等に伴う特別損失の増加により、当期利益はほぼ前期並み水準

(億円)

	06/3実績	07/3実績	+ / ▲	前回予想 (2/7発表)
売上高	5,341	5,504	+163	5,425
営業利益 (営業利益率)	241 (4.5%)	277 (5.0%)	+36	260
経常利益 (経常利益率)	352 (6.6%)	426 (7.7%)	+74	410
当期利益 (当期利益率)	281 (5.3%)	279 (5.1%)	▲ 2	305

持分法利益 148 178 178

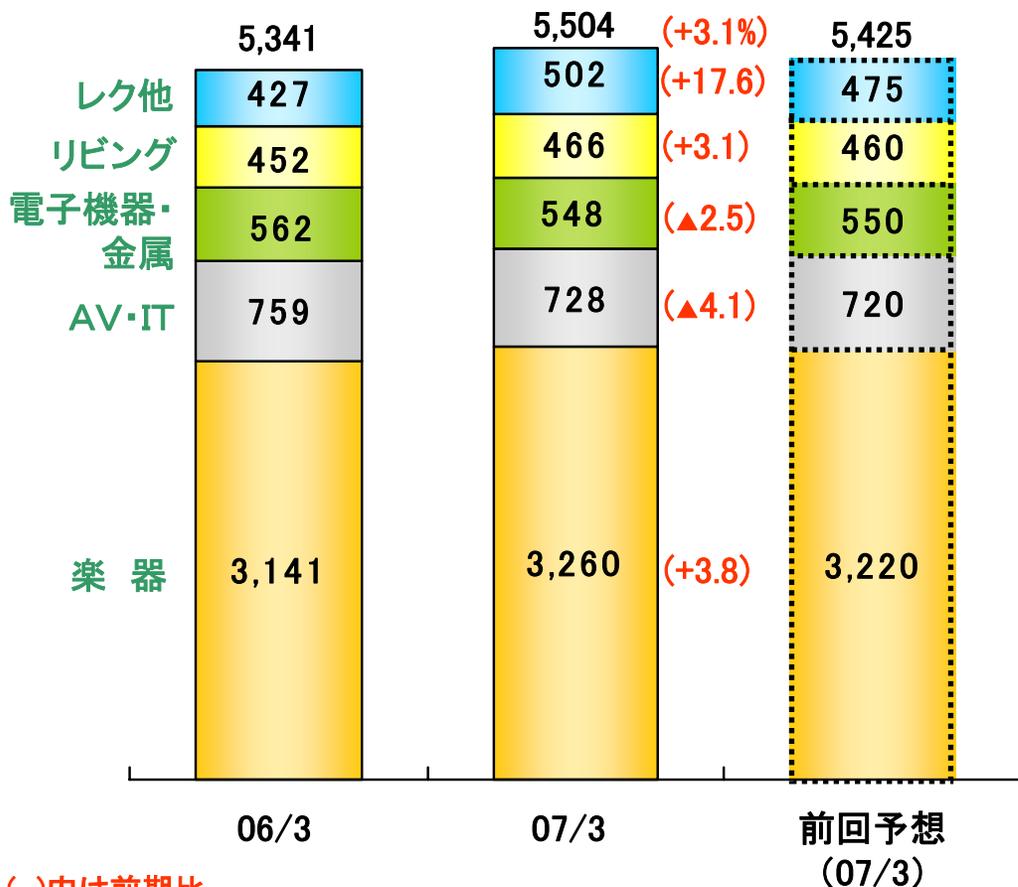
EPS(円)	136.0	135.2	-
ROE(%)	9.5	8.4	-

為替レート		06/3	07/3	前回予想
売上高	US\$	113	117	116
	EUR	138	150	148
利益	US\$	113	117	116
	EUR	135	144	143

2007/3期事業別業績



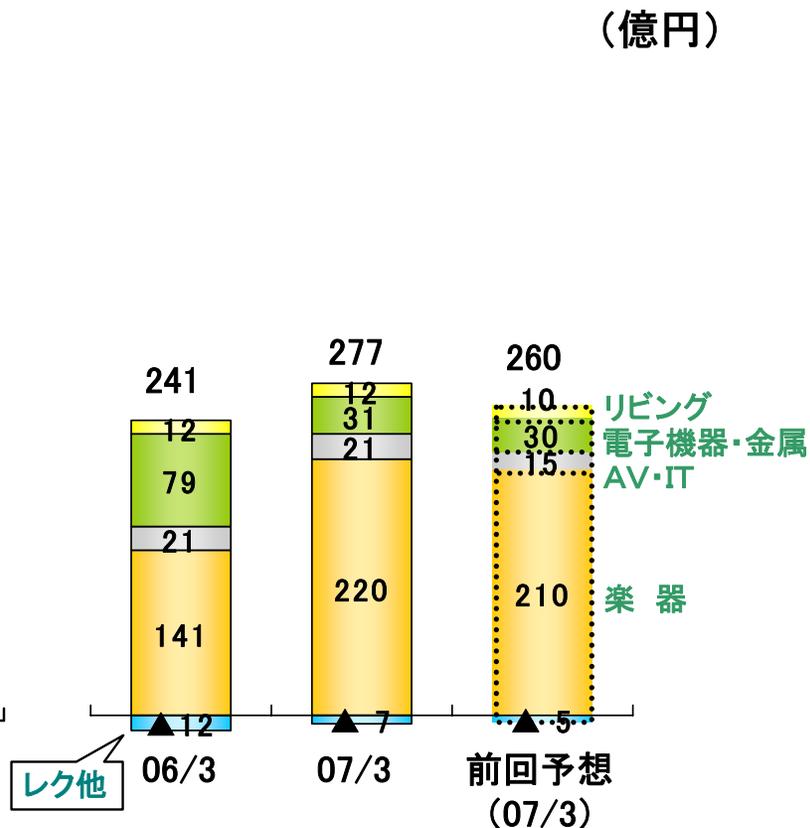
売上高



()内は前期比

前期との比較での為替影響は+147億円
 (楽器+112、AV・IT+35)
 前回予想との比較での為替影響は+35億円
 (楽器+28、AV・IT+7)

営業利益



レク他

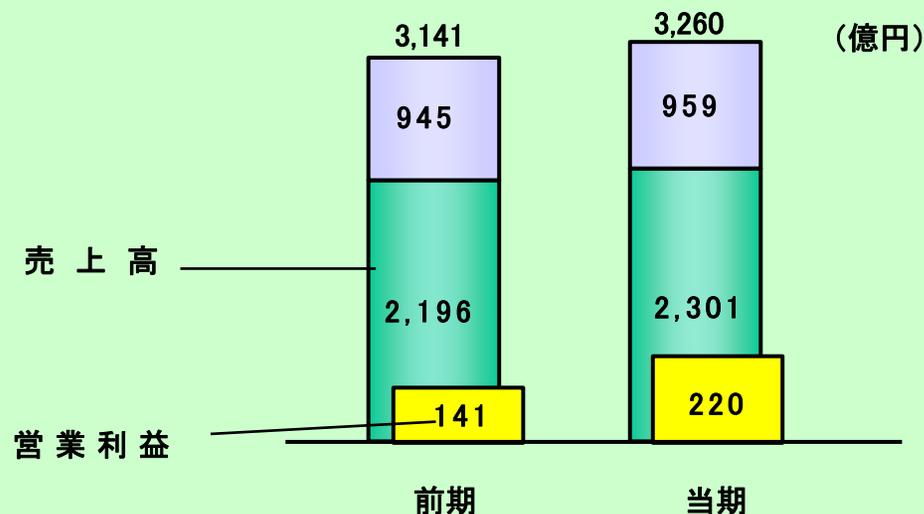
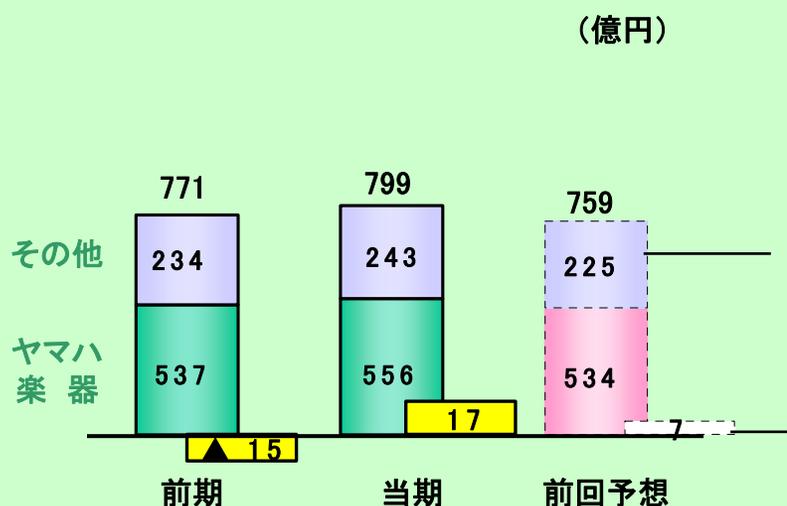
前期との比較での為替影響は+56億円
 (楽器+48、AV・IT+9、半導体▲1)
 前回予想との比較での為替影響は+4億円
 (楽器+5、AV・IT▲1)

4Qの状況

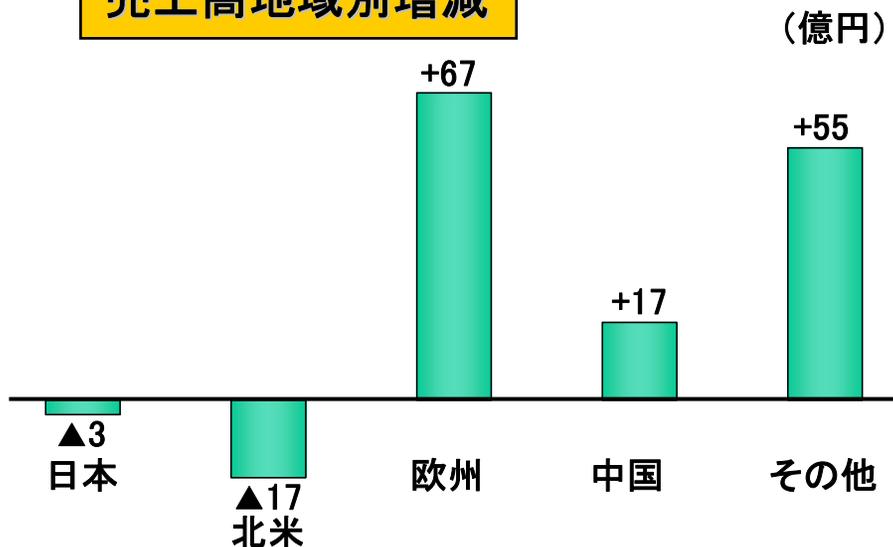
- ・ 為替を除いた4Qの実質売上高は前年同期比 +0.4%の増収。前回予想との比較では +1.6%の増収
- ・ 4Q営業利益は増収に加え為替益、売上総利益の改善等で、対前回予想増益
- ・ 期末在庫は為替影響分を除けば ほぼ前回予想並みの水準

通期の状況

- ・ 対前期増収増益。
- ・ 営業利益は為替益に加え、売上構成の変化による売上総利益率の上昇等により対前期大幅増益
- ・ 為替影響を除いた売上高はほぼ前期並み
- ・ 設備音響機器は欧米を中心に2桁成長。管楽器も好調継続
- ・ 現地通貨ベースで北米は対前期 6.0%の減収。一方欧州は1.4%の増収。
- ・ 韓国、中南米は引続き対前期2桁増の大幅な伸長。中国もピアノを中心に好調継続

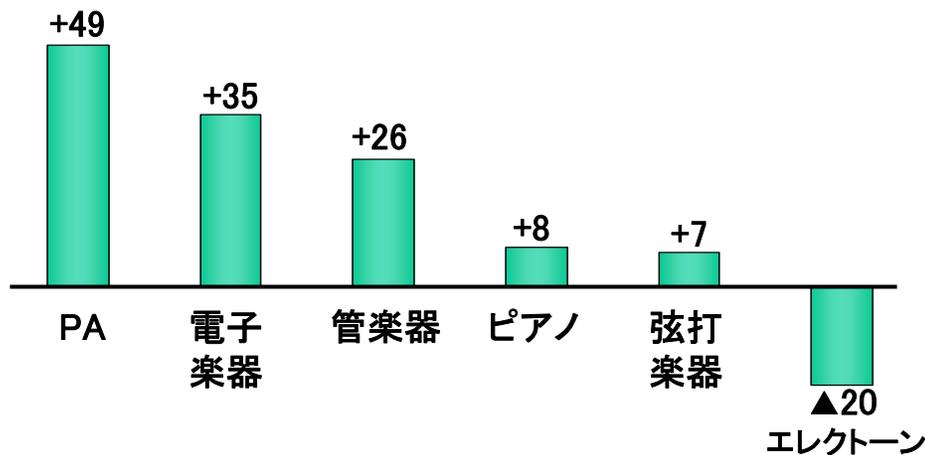


売上高地域別増減



・為替を除いた実質ベースでの前期比増減
日本(±0%)、北米(▲6%)、欧州(+1%)、
中国(+19%)、その他地域(+8%)

売上高商品別増減



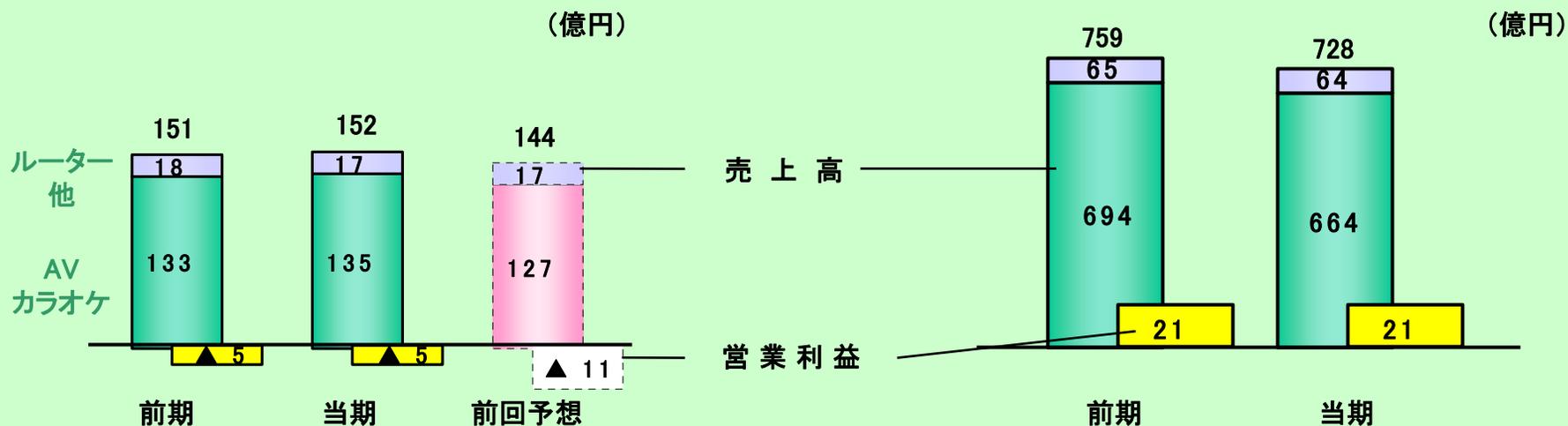
・商品別にはPA(+19%)、管楽器(+7%)、
電子楽器(+5%)、ピアノ(+2%)、
エレクトーン(▲22%)

4Qの状況

- ・ 4Q実質売上高は、前年同期を下回るものの、前回予想並みの水準
- ・ 営業利益は前年同期並み
- ・ 「YSP」は新製品導入もあり、ほぼ予定どおりの出荷
- ・ カラオケ低調。会議システムは販売体制構築に着手
- ・ 期末在庫は為替影響分を除けば対前回予想若干の増加

通期の状況

- ・ 対前期減収。カラオケ機器の減少が主因。営業利益は為替益もあり微増
- ・ AVは欧州でロシア、中東欧を中心に売上伸長し、実質前期比+2.6%の増収。国内は前期比20%の減少。北米は対前期実質微減
- ・ 「YSP」は当初目標には届かなかったものの10万台に迫る出荷

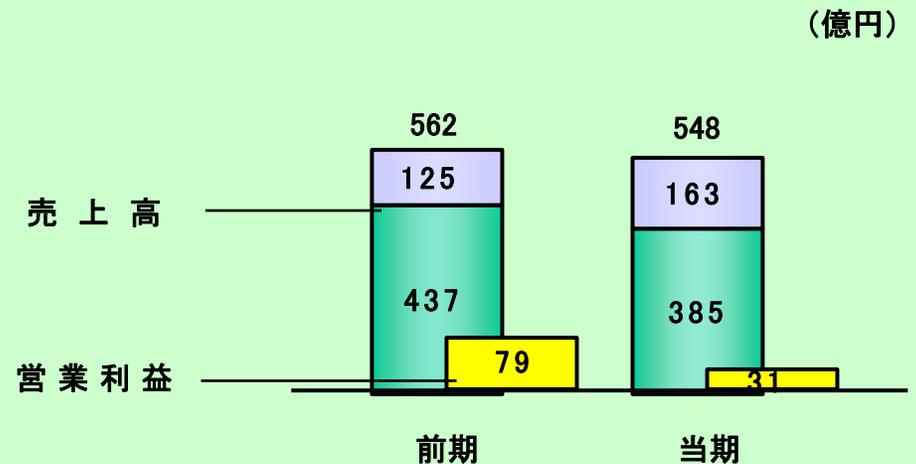
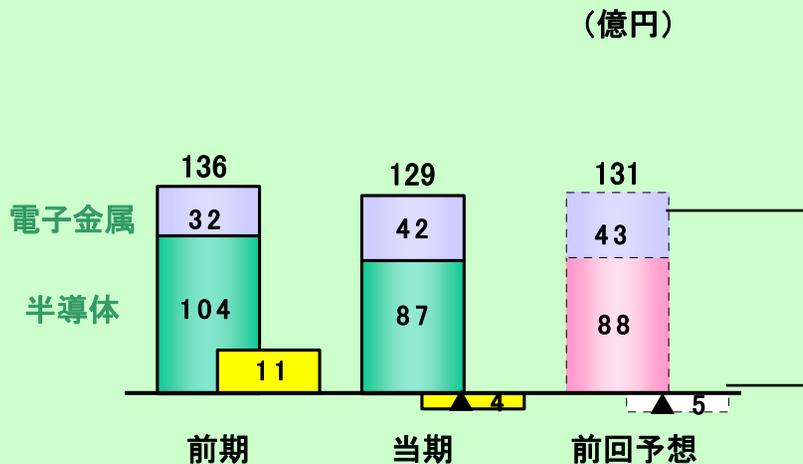


4Qの状況

- ・ 4Q業績は、対前年同期減収減益。ほぼ前回予想並みの水準
- ・ 半導体は携帯電話用音源LSI需要が減少
- ・ 電子金属材料は市況回復に遅れ。金属材料価格は引続き上昇基調

通期の状況

- ・ 半導体の減収に伴い、対前期大幅減益
- ・ 主力の携帯電話用音源LSIは、ソフト化進行し、数量大幅ダウン
- ・ アミューズメント、デジタルアンプは期待値を下回るものの、対前期伸長
- ・ 電子金属材料は、期を通じて市況が低迷する中、材料価格上昇に伴う価格転嫁により対前期増収

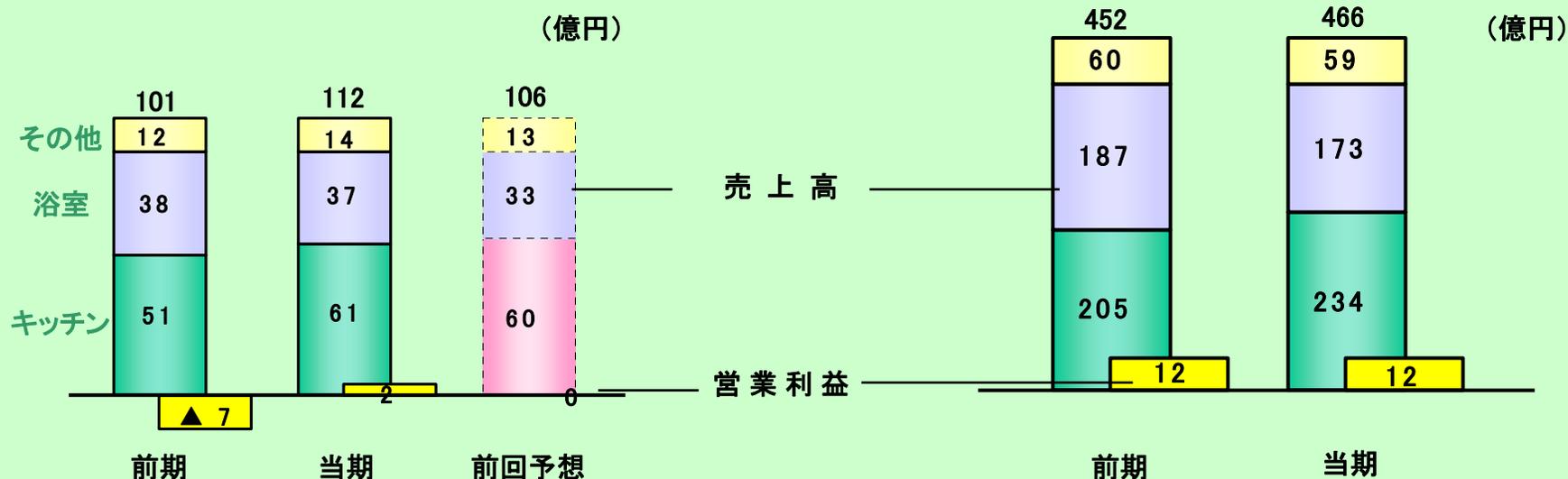


4Qの状況

- ・ 4Q業績は対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・ 売上高はシステムキッチンの好調な出荷に加え、暖冬も好影響

通期の状況

- ・ 対前期増収。営業利益は材料価格の上昇によるコスト増もあり、ほぼ前期並みの水準に留まる
- ・ システムキッチンが引続き好調継続し、対前期大幅な売上伸長。台数シェアも拡大
- ・ 新築住宅着工が伸び悩む中、リフォームビジネスを強化しているが、リフォーム比率は前期並み。今後に成果を期待



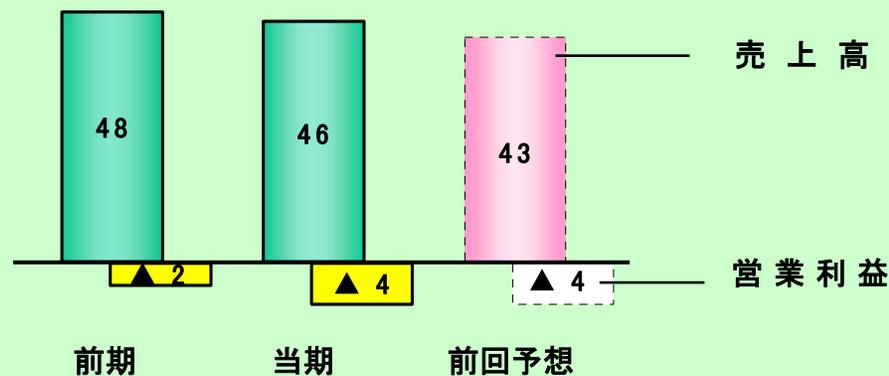
4Qの状況

- ・4Q売上高は前回予想を上回るものの、「つま恋」、「葛城」の改修工事のためのクローズも影響し、前年同期減収
- ・営業利益は前回予想並み

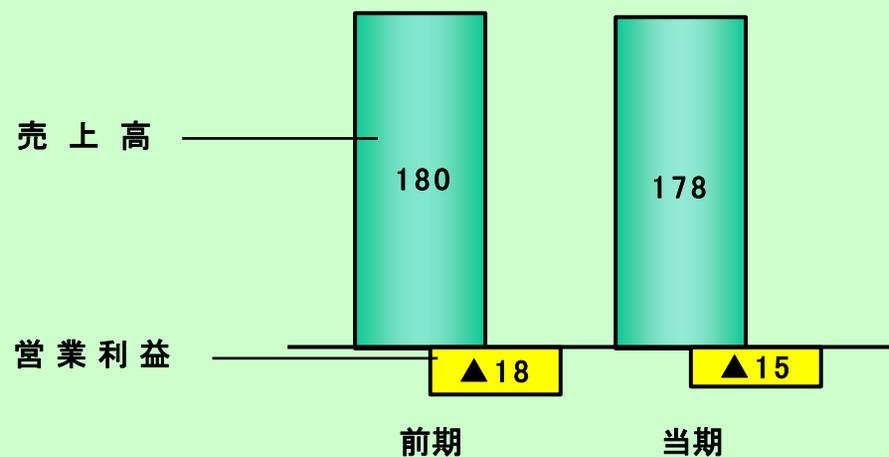
通期の状況

- ・売上高は対前期引続き減収
- ・営業利益は減価償却費減少により、赤字幅縮小
- ・「つま恋」、「葛城」を除く4施設の譲渡決定

(億円)



(億円)



その他事業



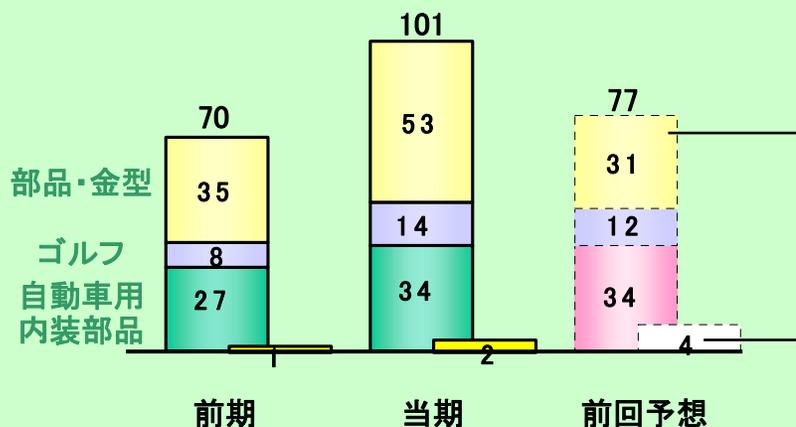
4Qの状況

- ・セグメント全体では対前年同期、前回予想とも大幅な増収
- ・携帯電話用Mg部品、ゲーム機用PI部品とも引続き増産継続
- ・ゴルフは広告効果奏功し、「inpres」好調

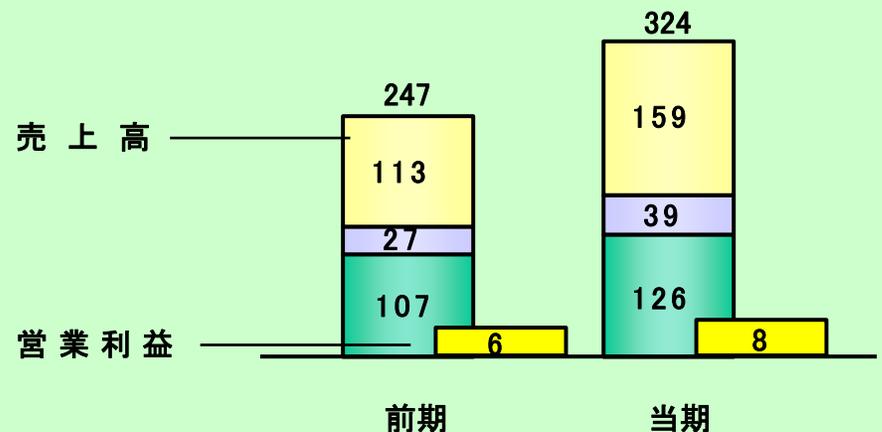
通期の状況

- ・セグメント全体では、対前期増収増益
- ・部品・金型事業ではMg部品、PI部品とも期を通じて増産継続
- ・自動車用内装部品は、新車需要で増産となるものの、歩留り改善遅れにより大幅な損益悪化
- ・ゴルフは対前期大幅増収。営業黒字化

(億円)



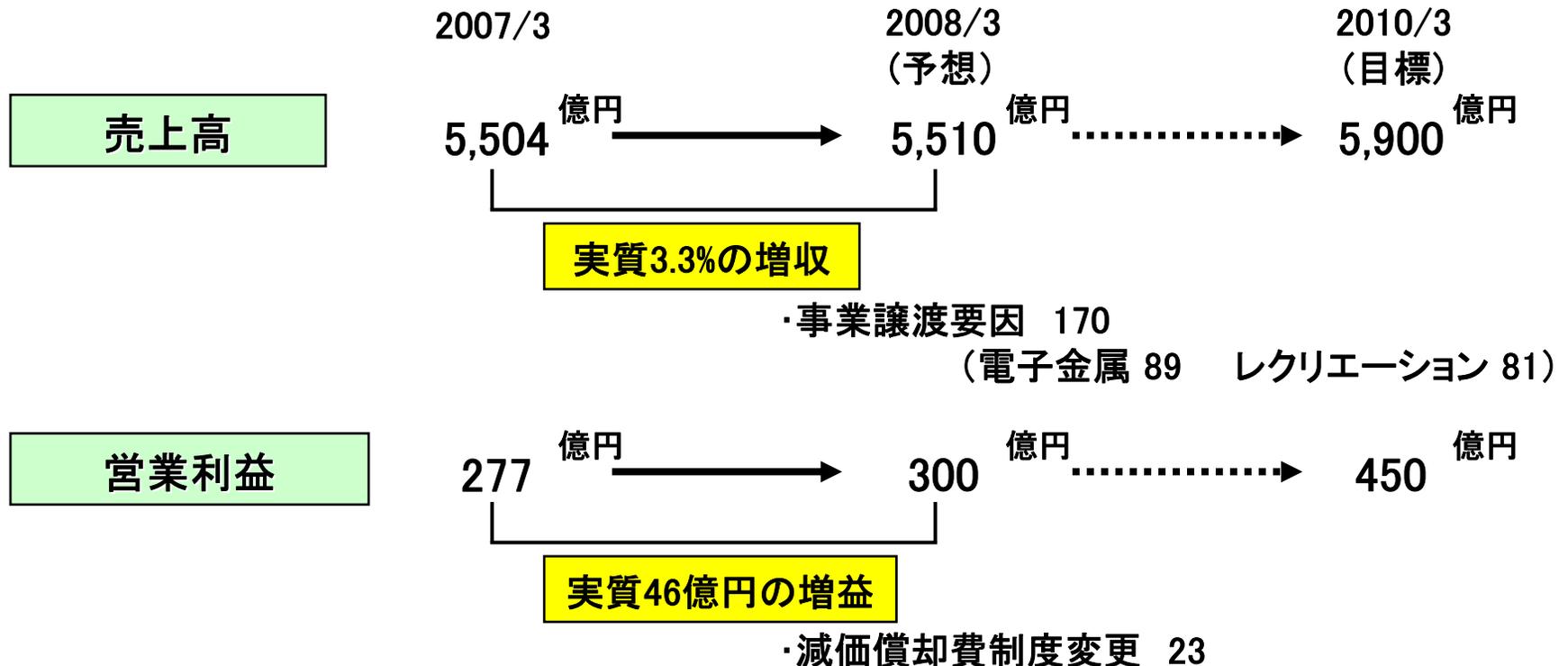
(億円)



2008/3期の経営枠組



➤2008/3期は、新中期経営計画「YGP2010」の初年度として、売上、利益目標を確実に達成し、3年後、2010/3期の経営目標に繋げる期とする



主要課題

- ・「The Sound Company」領域の最重点領域、楽器事業での成長
売上高 3,260 → 3,380 (+3.7%)
営業利益 220 → 240 (+20億円)
- ・フロントサラウンド商品を軸にAV拡販
- ・半導体、新デバイスの開発強化と顧客開拓
- ・電子金属事業、リゾート4施設のスムーズな事業譲渡
- ・新ビジネスの早期軌道乗せ(会議システム)

2008/3期 業績予想



(億円)

10/3目標
(中期計画)

	07/3 実績	08/3 予想	伸び率
売上高	5,504	5,510	+0.1%
営業利益 (営業利益率)	277 (5.0%)	300 (5.4%)	+8.3%
経常利益 (経常利益率)	426 (7.7%)	430 (7.8%)	+0.9%
当期利益 (当期利益率)	279 (5.1%)	300 (5.4%)	+7.5%
持分法利益	178	177	
EPS(円)	135.2	145.6	-
ROE(%)	8.4	8.3	-

5,900

450

-

470

為替レート

07/3実績

08/3予想

中期計画

売上高

US\$
EUR

117
150

115
148

115
148

利益

US\$
EUR

117
144

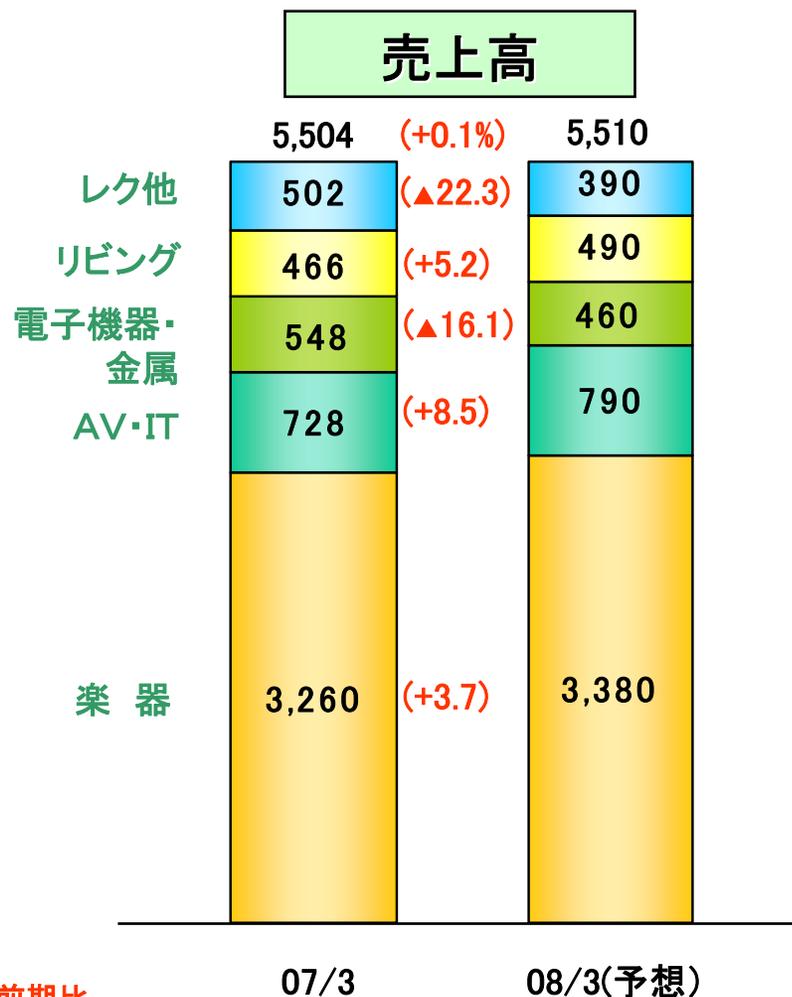
115
148

115
148

2008/3期事業別業績予想

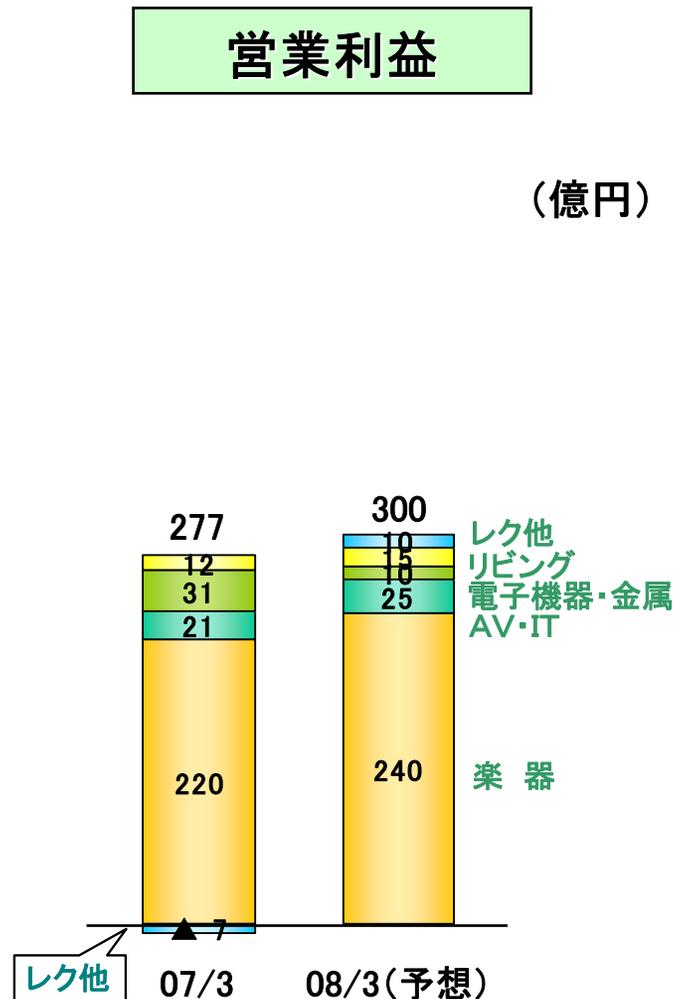


売上高



07/3との比較での為替影響は▲40億円
(楽器▲30、AV・IT▲10)

営業利益



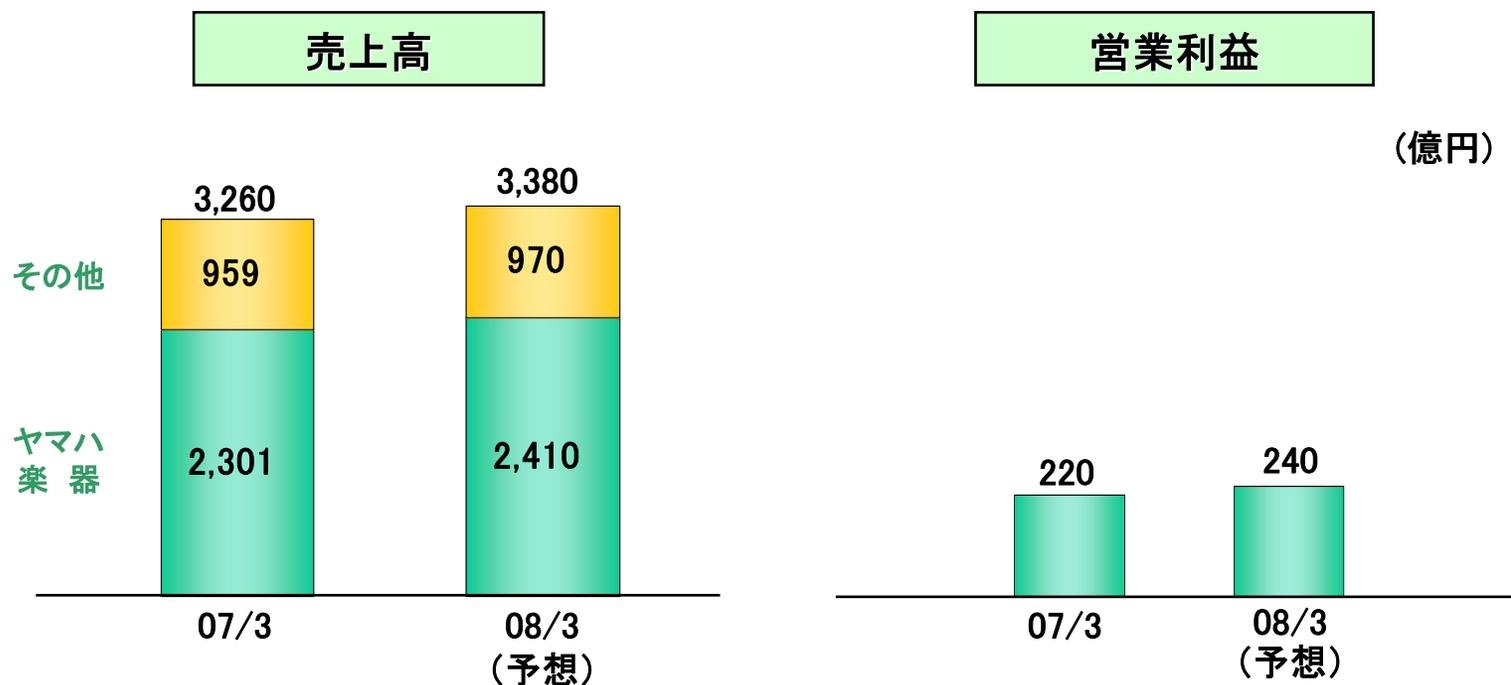
07/3との比較での為替影響は+16億円
(楽器+8、AV・IT+7)

■市場環境

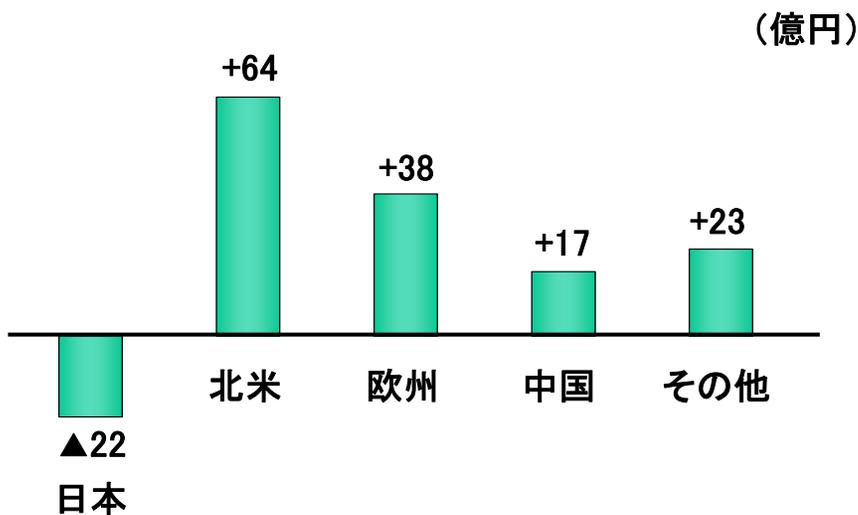
- ・需要の二極化(高付加価値品と廉価品)
- ・中国メーカー、中国製品の台頭
- ・流通再編の進行(大型チェーン店、量販店)
- ・大人市場、ギター市場拡大

■重点施策

- ・ヤマハの中核事業として高収益構造の確立
- ・顧客視点からの商品ラインナップ充実
- ・コスト競争力強化(杭州ヤマハ、インドネシア、ピアノ国内工場再編)
- ・成長市場での拡販(中国、ロシア、東欧等)



売上高地域別増減



・為替を除いた実質ベースでの前期比増減
日本(▲2%)、北米(+11%)、欧州(+7%)、
中国(+16%)、その他地域(+8%)

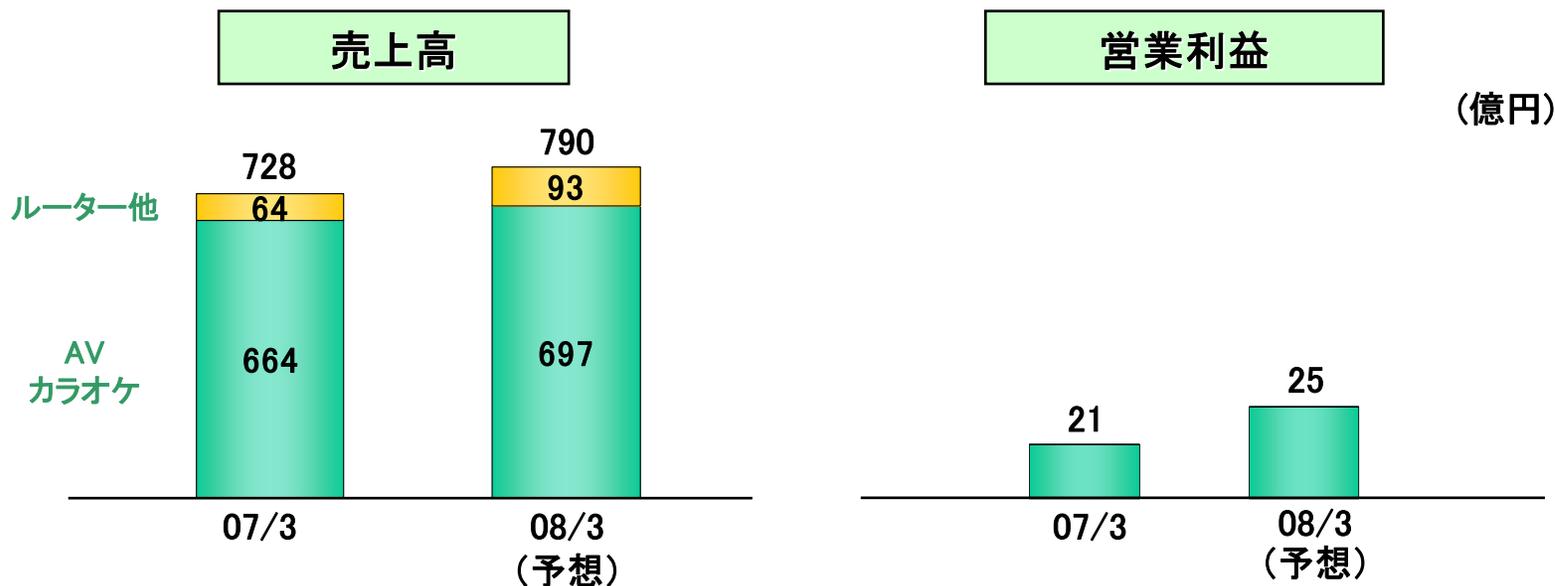
・商品別にはPA、電子楽器を中心に伸ばす
計画

■市場環境

- ・ホームシアター市場の縮小と競争激化
- ・HiFiビジネスの復調
- ・フラットテレビ市場拡大
- ・ネットワーク社会の拡大

■重点施策

- ・市場変化に合わせたAVビジネスの構築
 - 中高級を中心に2chHiFiビジネス再強化
 - フロントサラウンド商品のラインナップ充実と継続的投入
 - 新ジャンル商品の開発、市場導入(デスクトップオーディオ等)
- ・会議システムのマーケティング強化(日本、北米)

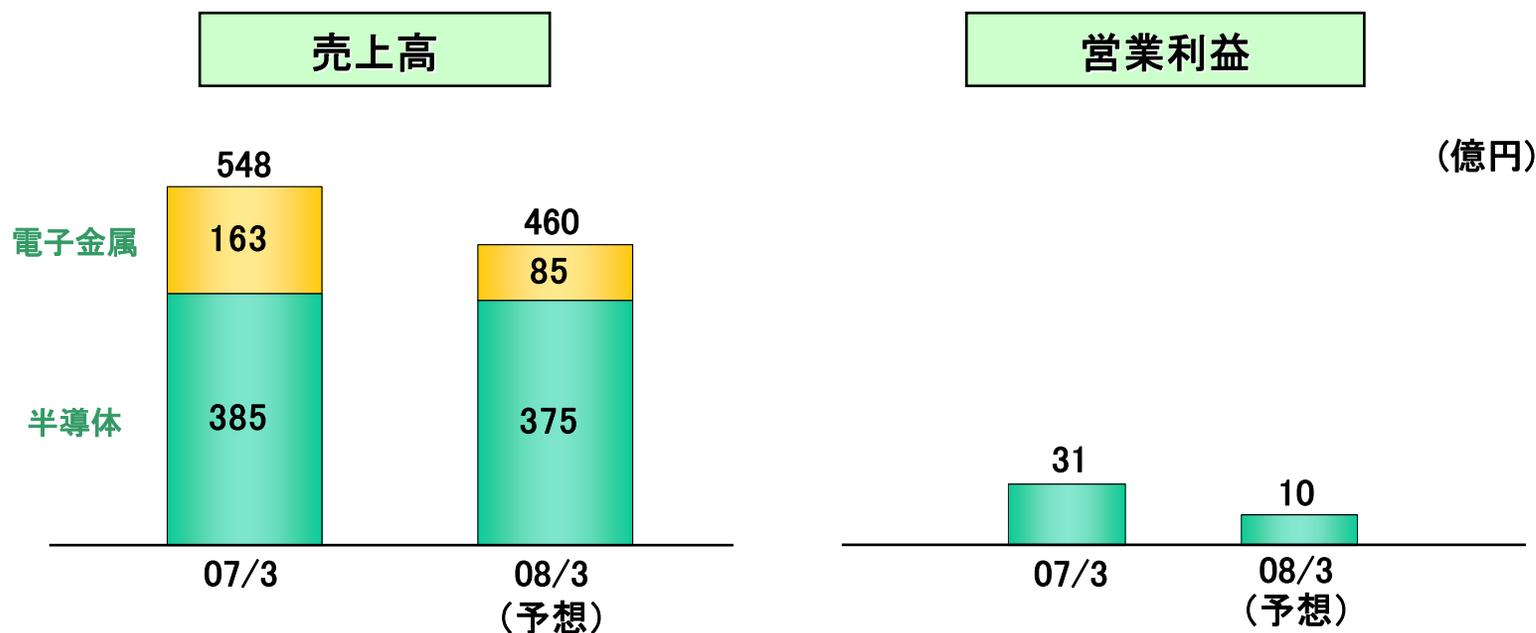


■市場環境

- ・携帯電話市場拡大。高品質、低消費電力ニーズの高まり
- ・自動車のエレクトロニクス化進行
- ・フラットテレビの急拡大

■重点施策

- ・携帯電話用音源LSIの生き残り
- ・アミューズメント分野でのシェア拡大
- ・「Smart AnaHyM」戦略の推進(シリコンマイク、デジタルアンプ)
- ・電子金属事業のスムーズな事業移管

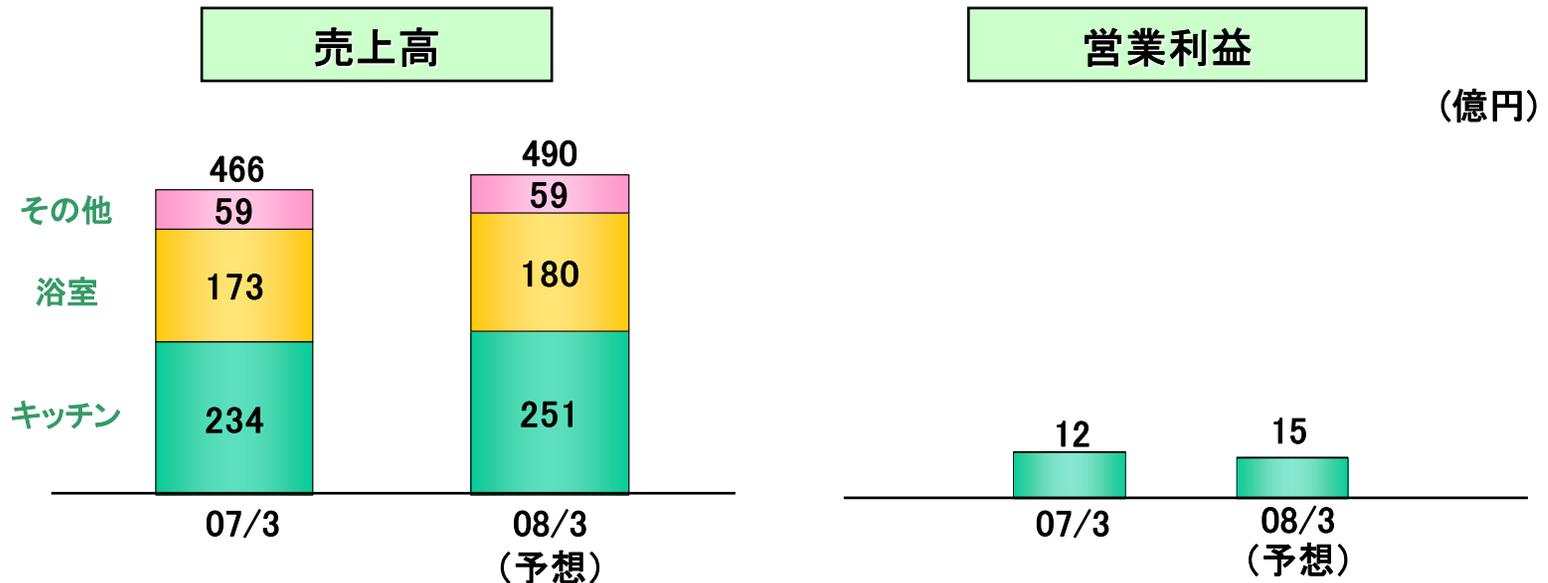


■市場環境

- ・新築住宅着工数の頭打ちと一次取得者の若年化
- ・団塊世代を中心に住宅リフォームの動き
- ・住宅の安全性、品質追求 ニーズの高まり
- ・業界再編進行

■重点施策

- ・キッチンを中心とした成長戦略の推進
- ・市場ニーズに合わせた営業改革の推進(ショールーム増設、リフォーム強化)
- ・高級/普及/エントリの商品体系充実
- ・差別化戦略(人造大理石、サウンドシャワー等)
- ・標準化、リードタイム短縮によるコストダウン



レクリエーション事業

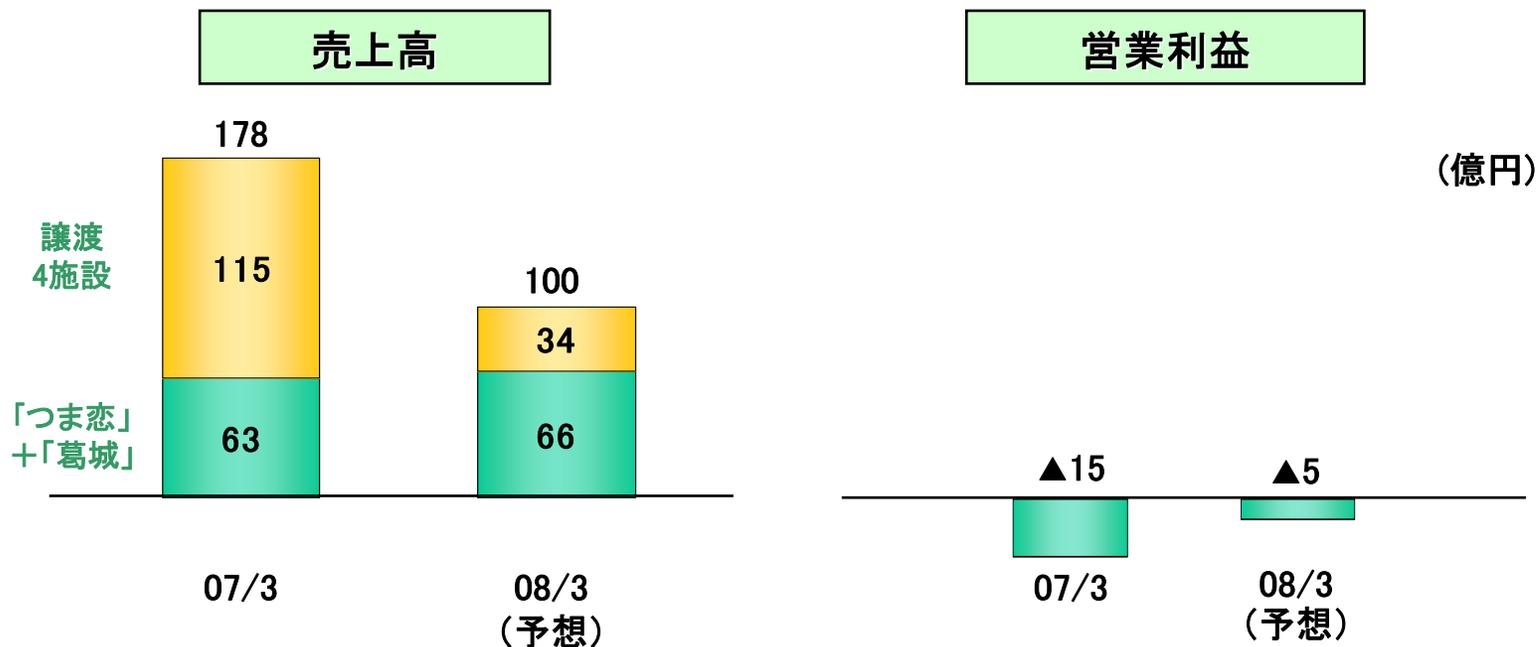


■市場環境

- ・低価格化と本物志向の二極化進展
- ・お金に余裕のある団塊世代の増加
- ・業界再編の動き

■重点施策

- ・譲渡決定した4施設のスムーズな引渡し
- ・残った2施設の一層の価値向上



その他事業

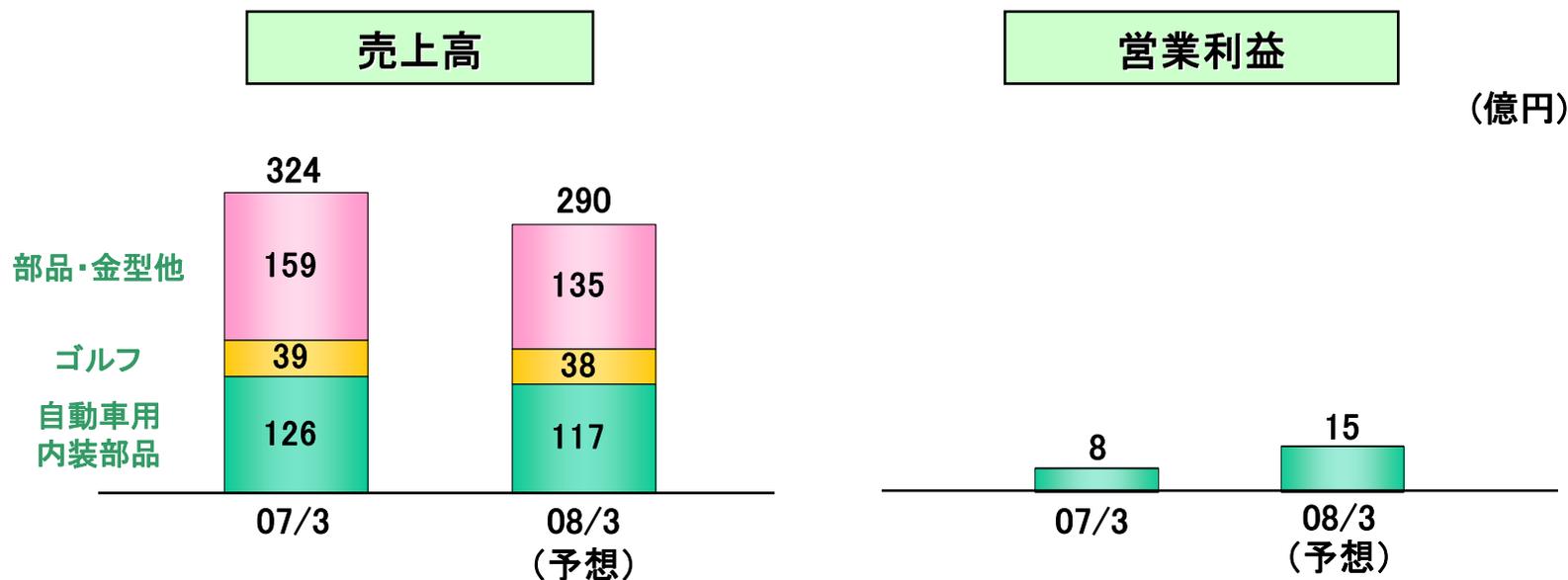


■市場環境

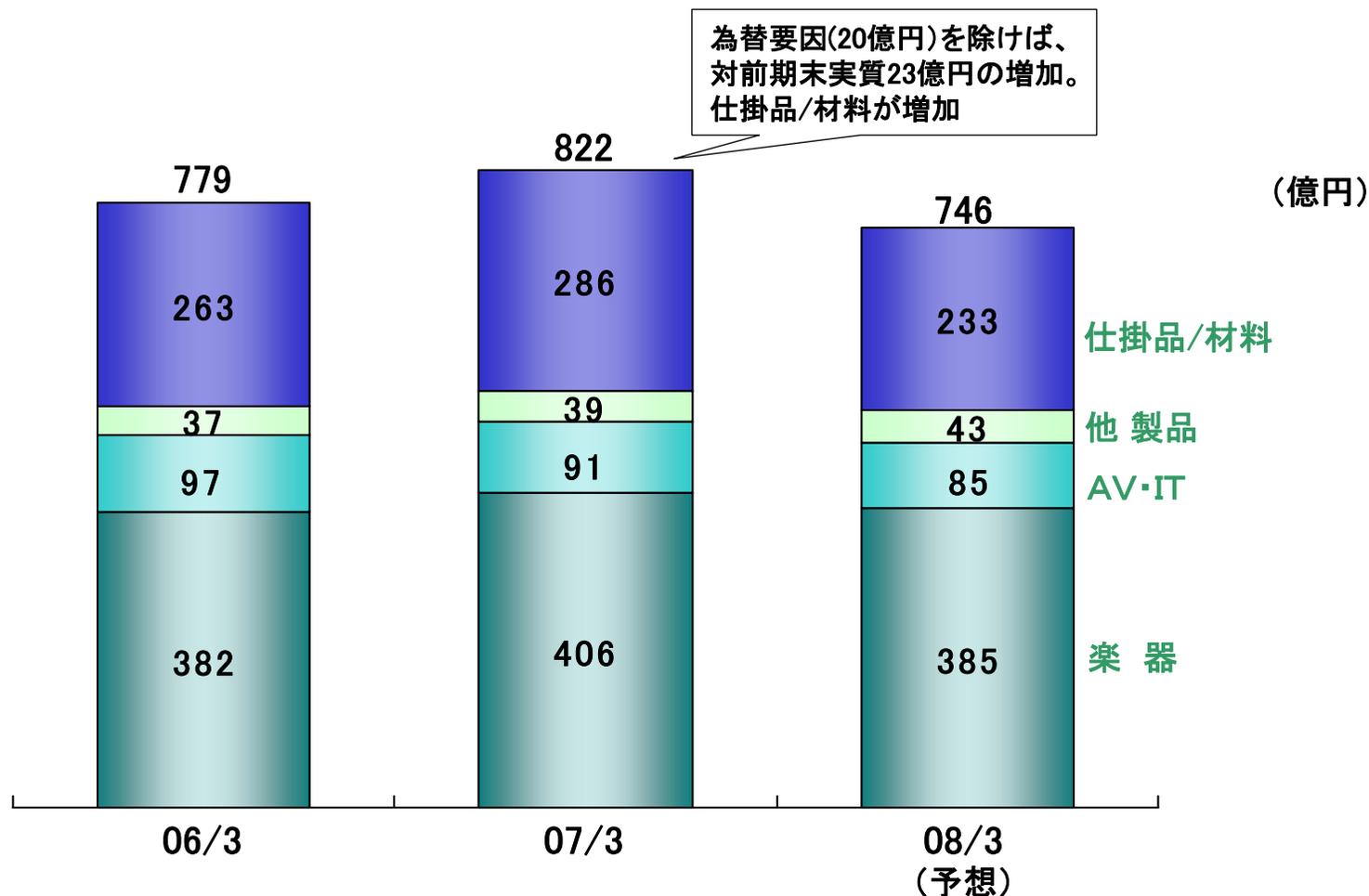
- ・携帯電話市場拡大。デジタルカメラ普及拡大
- ・景気回復に伴う企業の設備投資拡大

■重点施策

- ・部品・金型ビジネスは受注変動への円滑な対応と歩留りの更なる向上
- ・自動車用内装部品のYFT事業移管による損益改善
- ・ゴルフは継続的広告展開による拡販



棚卸資産

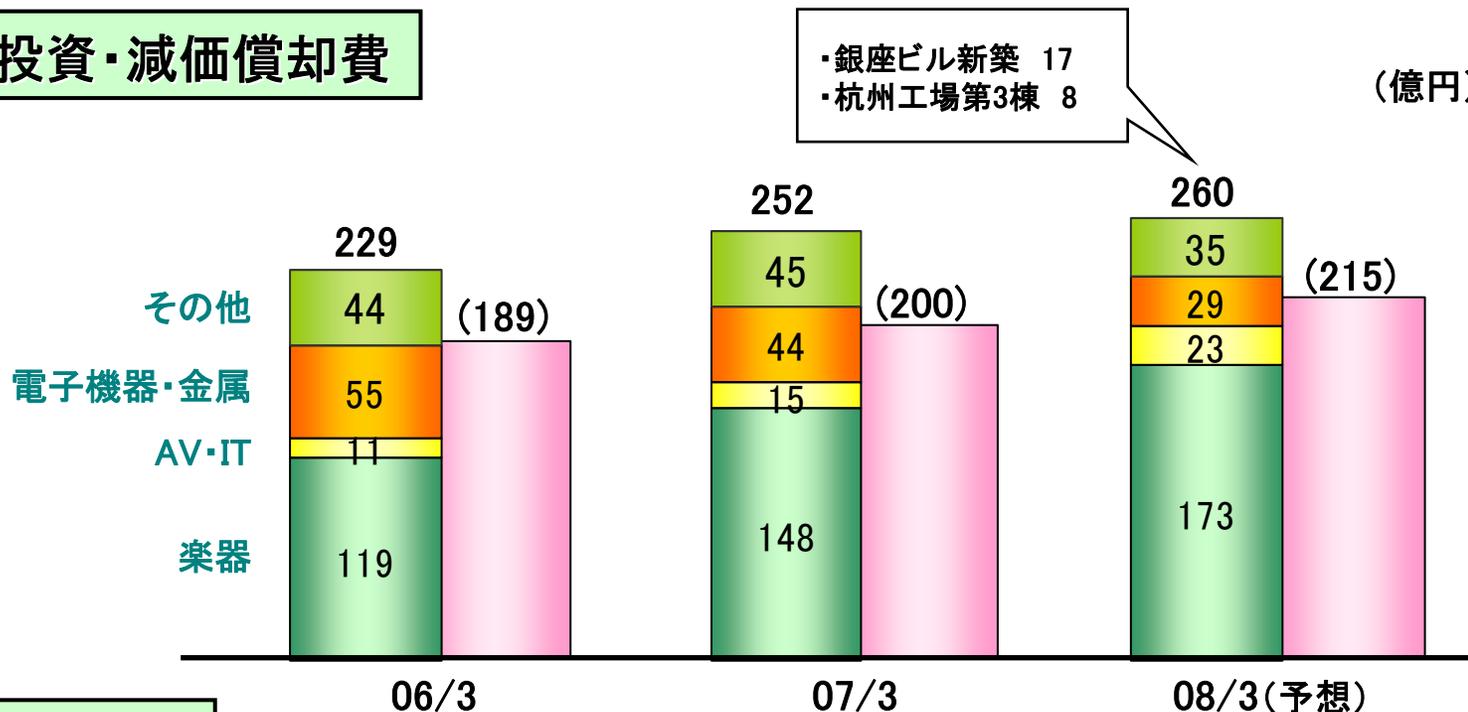


- 為替要因を除いた07/3末在庫は対前回予想(2/7)実質37億円の増加
楽器は予想並み。AV・ITやや増。仕掛品/材料が増加
- 08/3末在庫は746億円の計画。為替要因が18億円と事業譲渡影響41億円
があり、仕掛品、材料を中心に実質17億円の在庫を縮小する計画

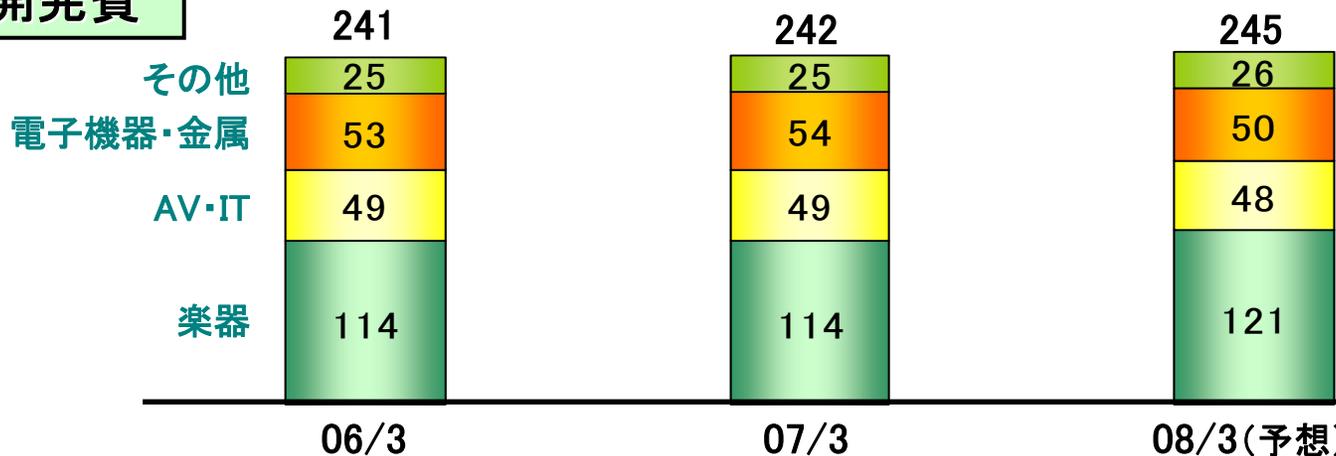
設備投資・減価償却費/研究開発費



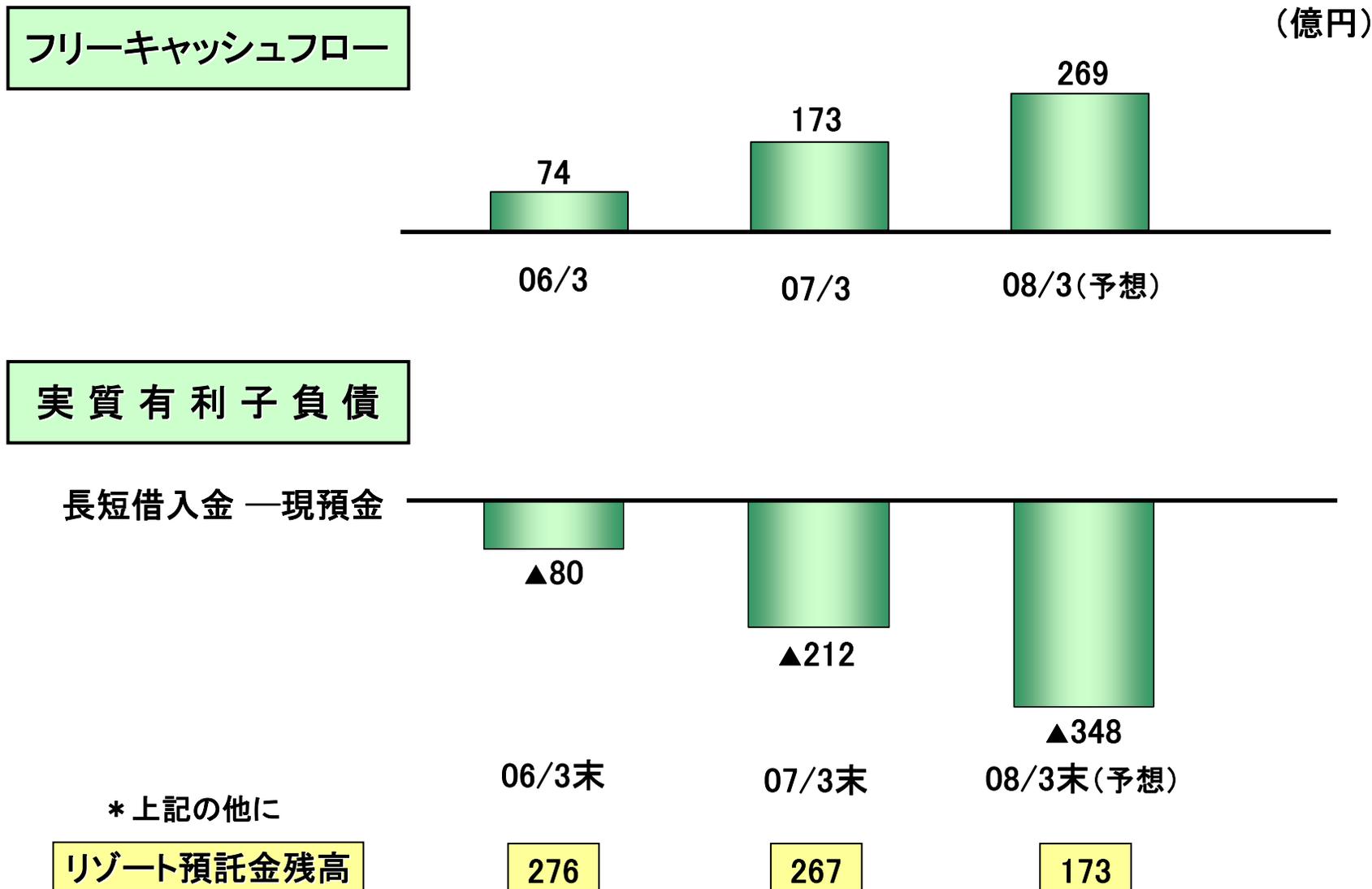
設備投資・減価償却費



研究開発費



実質有利子負債



予想貸借対照表



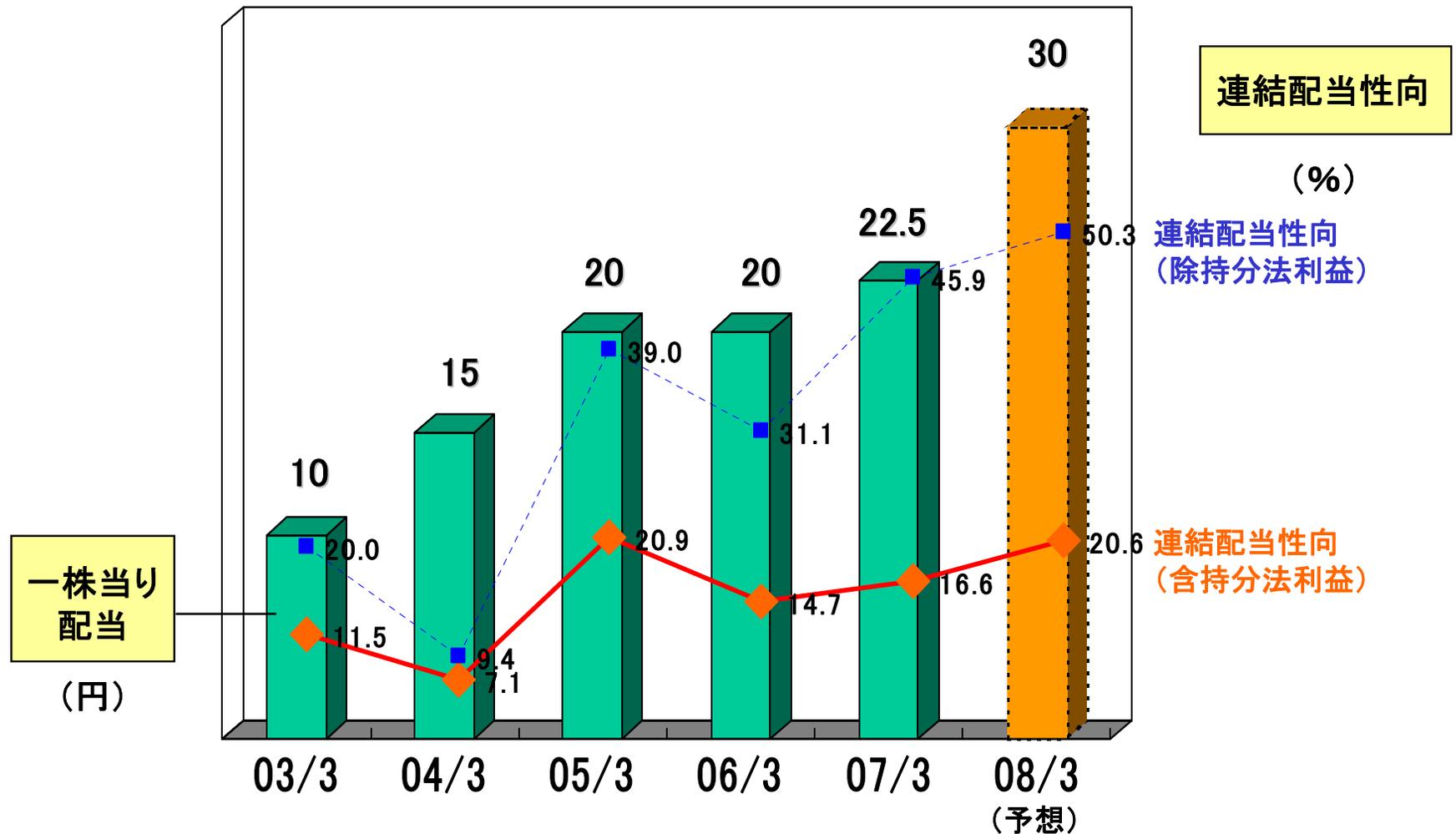
(億円)

	05/3末	06/3末	07/3末	08/3末
現金	512	364	467	523
預金				
売上債権	716	703	766	739
棚卸資産	784	779	822	746
他流動資産	244	248	255	171
固定資産	2,800	3,106	3,280	3,333
資産計	5,056	5,200	5,590	5,512
仕入債務	377	372	432	396
借入金	466	285	256	175
他負債	1,423	1,338	1,388	1,222
純資産計	2,790	3,205	3,514	3,719
負債・純資産計	5,056	5,200	5,590	5,512

株主還元



➤ 継続的かつ安定的な配当を基本に、連結配当性向25%を目標に、
更なる利益還元に努める



大量買付行為への対応策について



➤ 昨年発表した保有比率が20%以上となる買付行為に対するルールを見直し。
独立委員会による検討。防衛策導入については株主総会決議事項へ変更

① 必要情報及び買付説明書の提出

- ・買付者及びそのグループの詳細(名称等)
- ・大量買付行為の目的、方法及び内容
- ・買付価額の算定根拠及び買付資金の裏付け
- ・買付行為完了後の経営方針、事業計画等
- ・買付後の従業員等利害関係者に対する方針
- ・その他独立委員会が合理的に必要と判断する情報

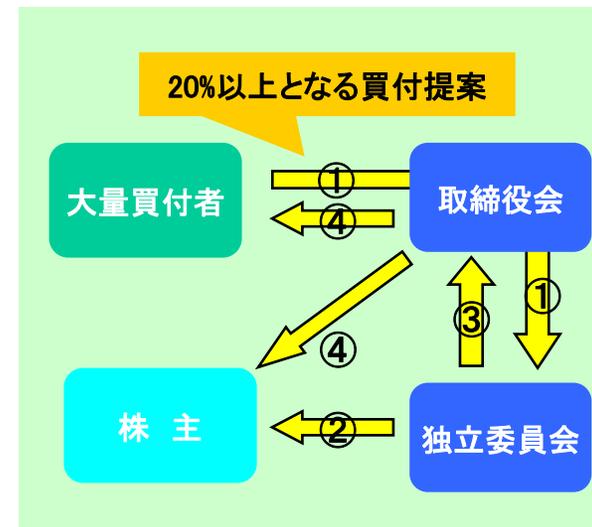
② 株主への情報提示

必要に応じ、追加情報、代替案等を買付者および取締役会へ要請

独立委員会での検討
(検討期間最長60日)

③ 独立委員会による防衛策の発動是非勧告

④ 勧告を尊重し、取締役会決議



本スキームの発効については、2007年
6月定例株主総会決議による
(2010年までの3年間有効)

付属資料

2007/3期 4Q業績概要



▶ 前回予想(2/7)に対し、増収営業増益。当期利益はリゾート減損に伴い減益

(億円)

	06/3 4Q実績	07/3 4Q実績	+ / ▲	前回予想 (2/7発表)
売上高	1,277	1,339	+62	1,260
営業利益 (営業利益率)	▲17 (▲1.3%)	8 (0.6%)	+25	▲9 (▲0.7%)
経常利益 (経常利益率)	▲3 (▲0.2%)	41 (3.1%)	+44	25 (2.0%)
当期利益 (当期利益率)	7 (0.5%)	▲20 (▲1.5%)	▲27	6 (0.5%)

為替レート

06/3 4Q実績

07/3 4Q実績

前回4Q予想

売上高 US\$ 117
EUR 141

119
156

115
148

利益 US\$ 117
EUR 138

120
151

115
148

営業外損益、特別損益



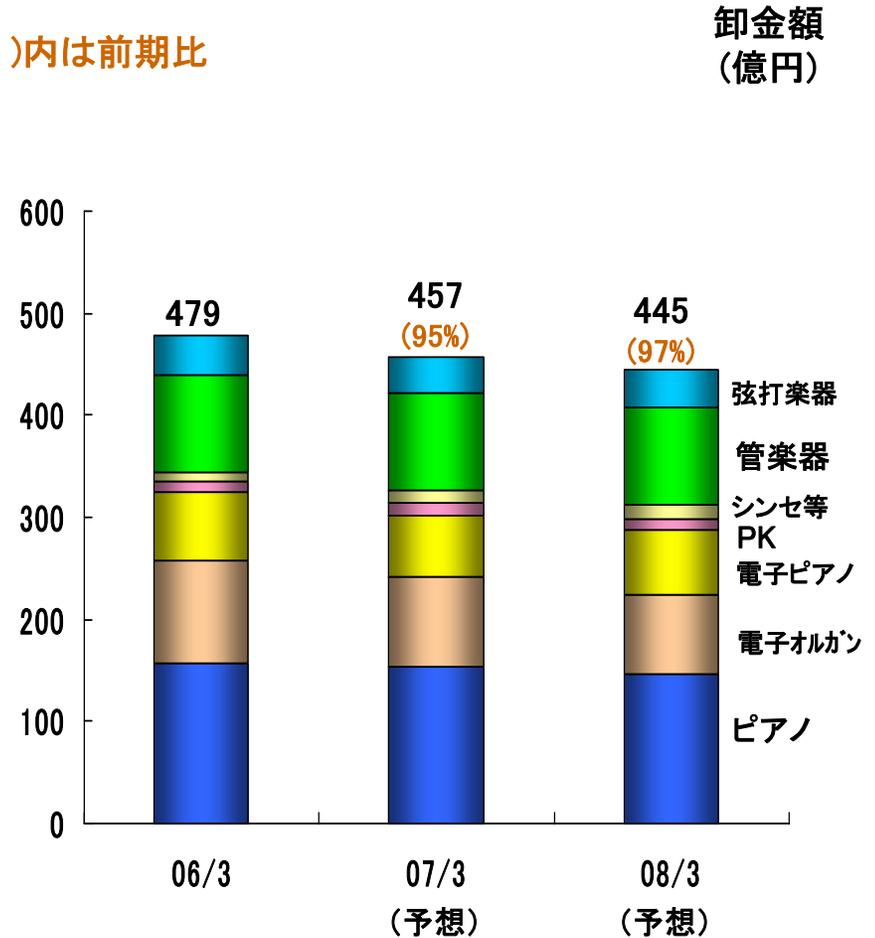
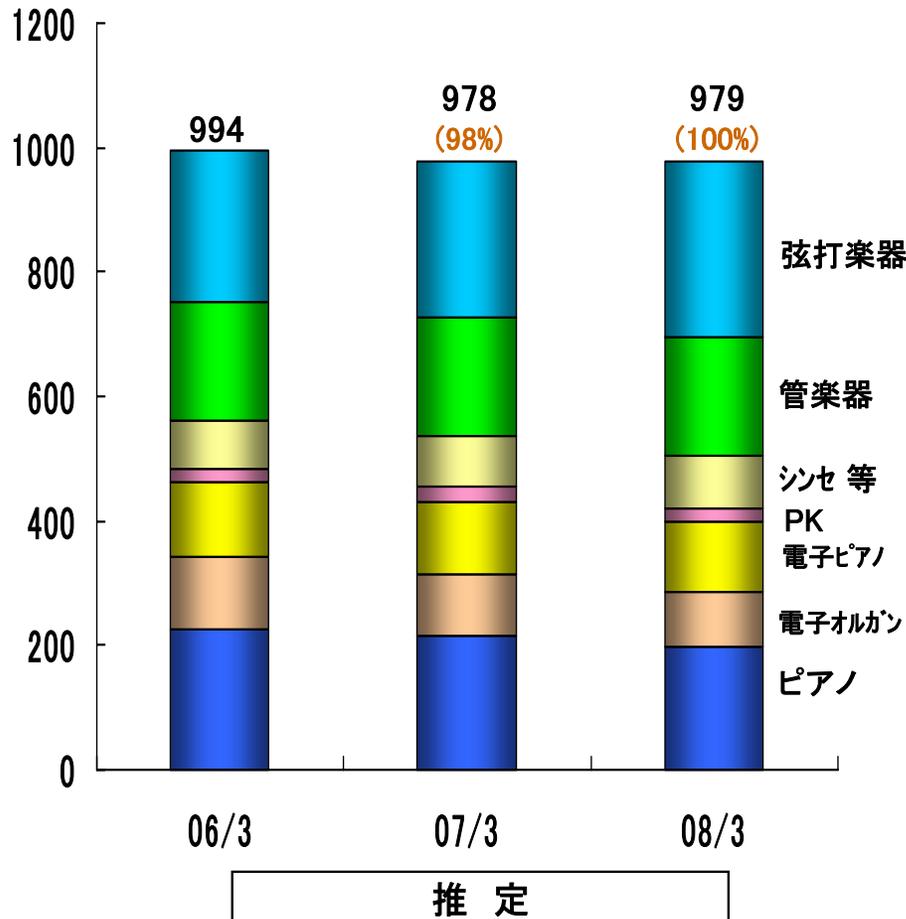
	06/3実績	07/3実績	08/3予想
営業外損益			(億円)
持分法利益	148	178	177
金融収支	▲ 2	1	▲ 1
その他	▲ 35	▲ 30	▲ 46
計	+111	+149	+130
特別損益			
固定資産処分損益	▲ 2	▲ 11	18
その他	8	▲ 84	2
		<ul style="list-style-type: none"> ・リゾート減損損失 ▲47 ・高雄ヤマハ解散 ▲17 ・北米工場解散 ▲15 ・特別退職金 ▲7 	
計	+ 6	▲ 95	+ 20
法人税他			
法人税等	72	47	142
少数株主持分	5	5	8
計	77	52	150

国内楽器市場推移



国内楽器市場卸売上高推移
 <カテゴリー別(除PA)>

ヤマハ卸ベース売上高(除PA)

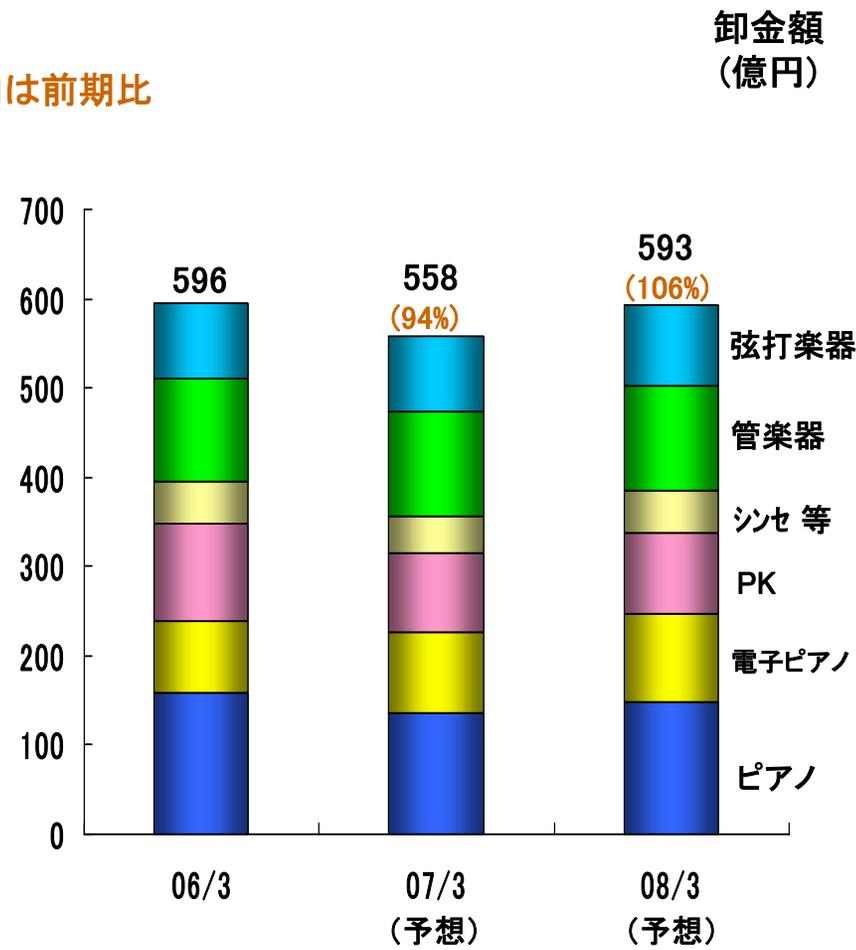
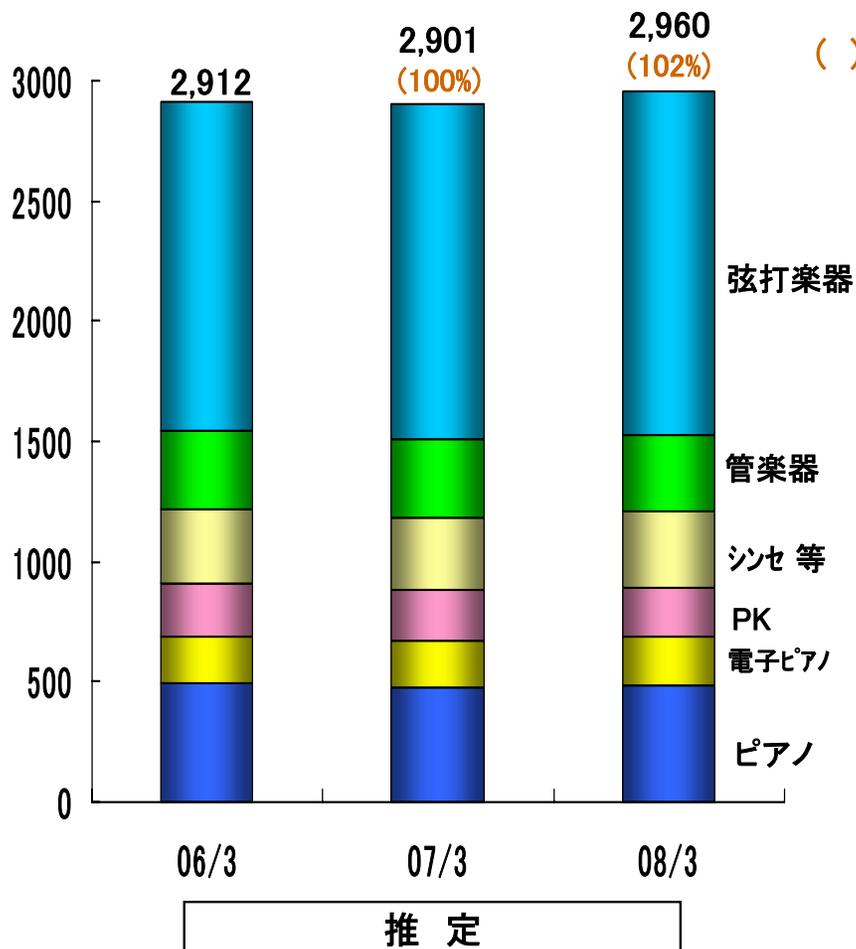


北米楽器市場推移



北米楽器市場卸売上高推移
 <カテゴリー別(除PA)>

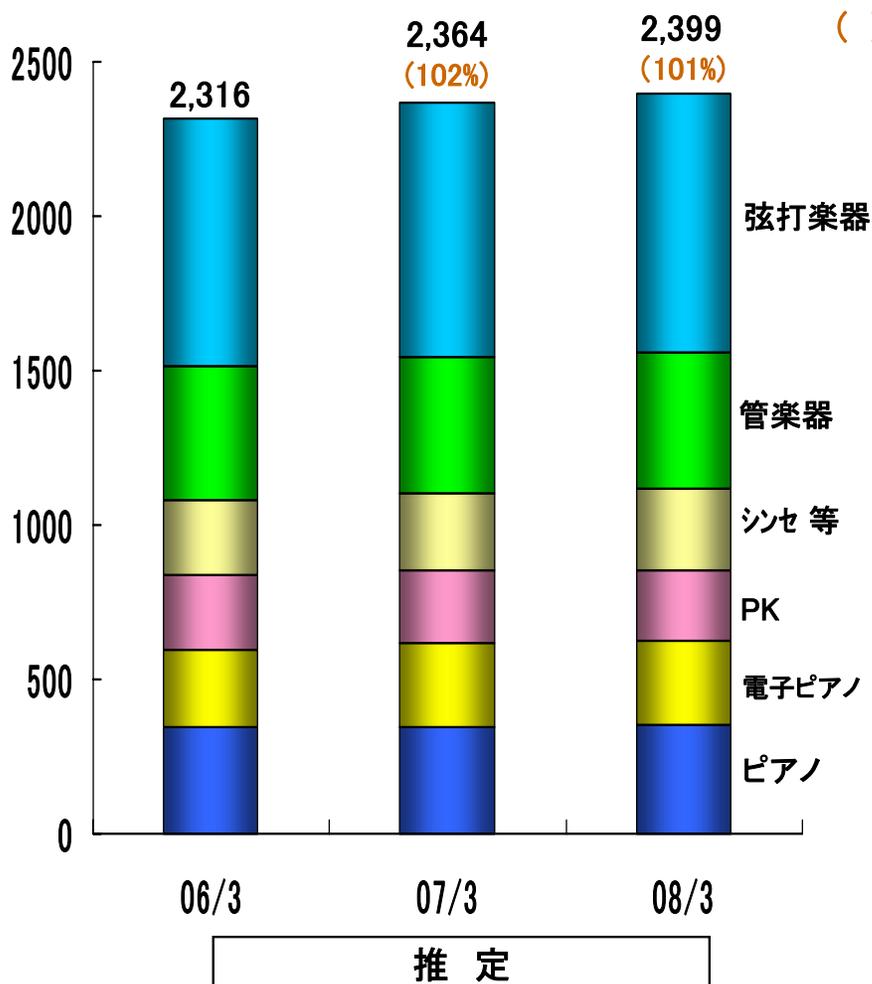
ヤマハ卸ベース売上高(除PA)



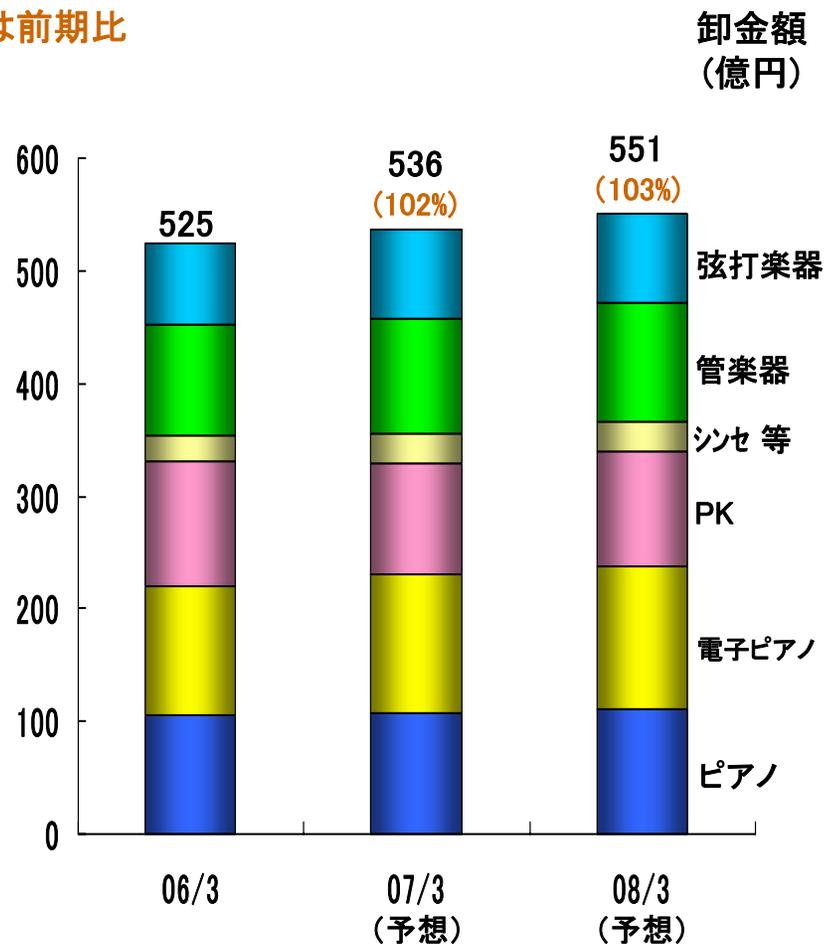
欧州楽器市場推移



欧州楽器市場卸売上高推移
 <カテゴリー別(除PA)>



ヤマハ卸ベース売上高(除PA)

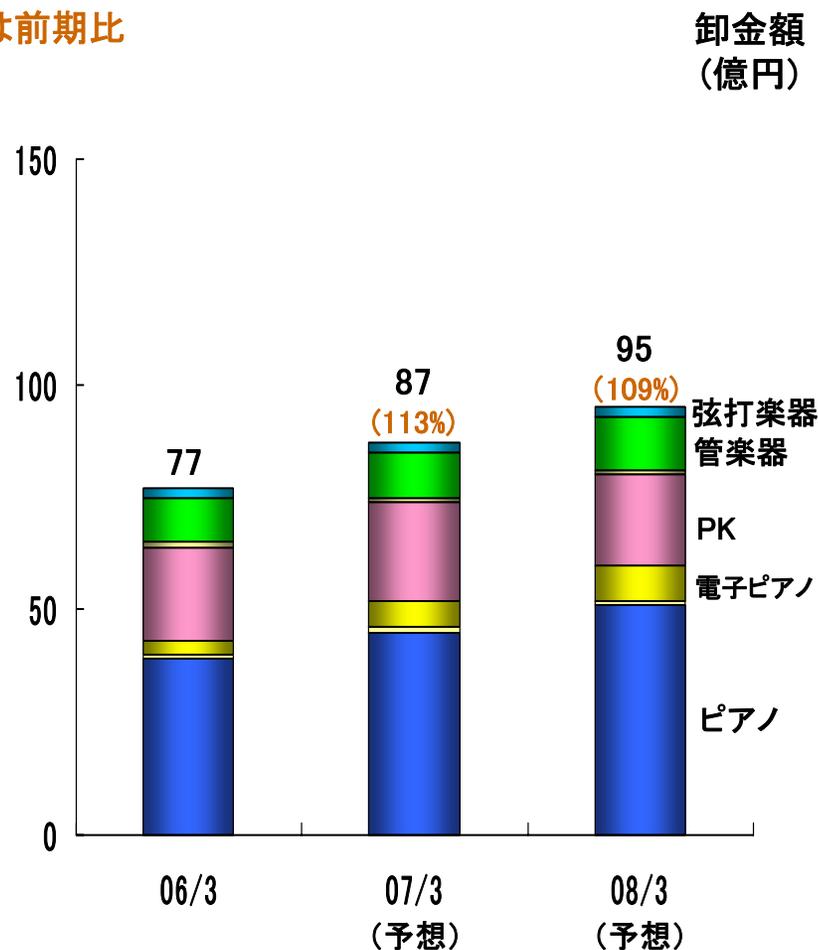
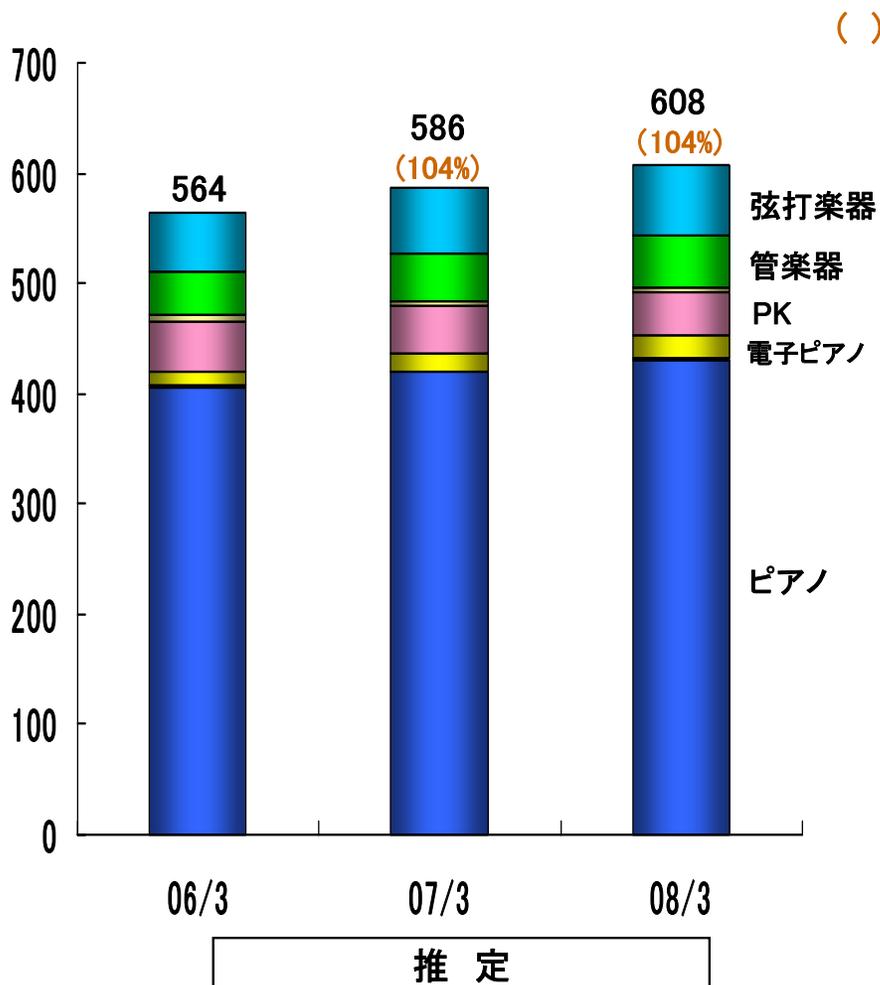


中国楽器市場推移



中国楽器市場卸売上高推移
 <カテゴリー別(除PA)>

ヤマハ卸ベース売上高(除PA)

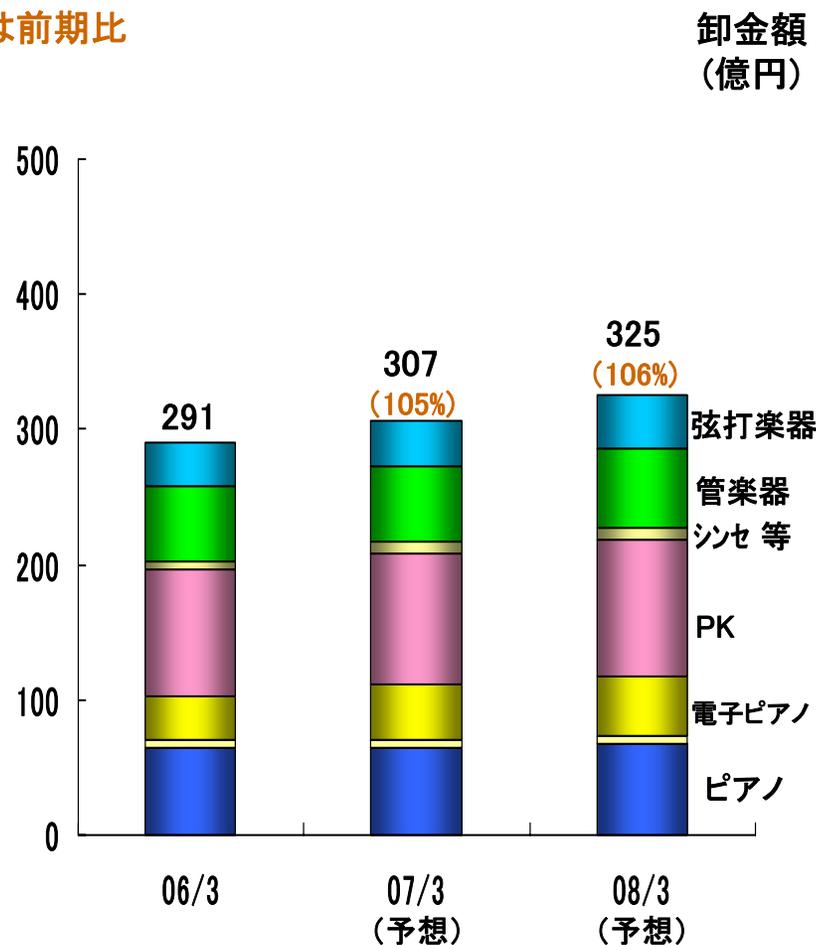
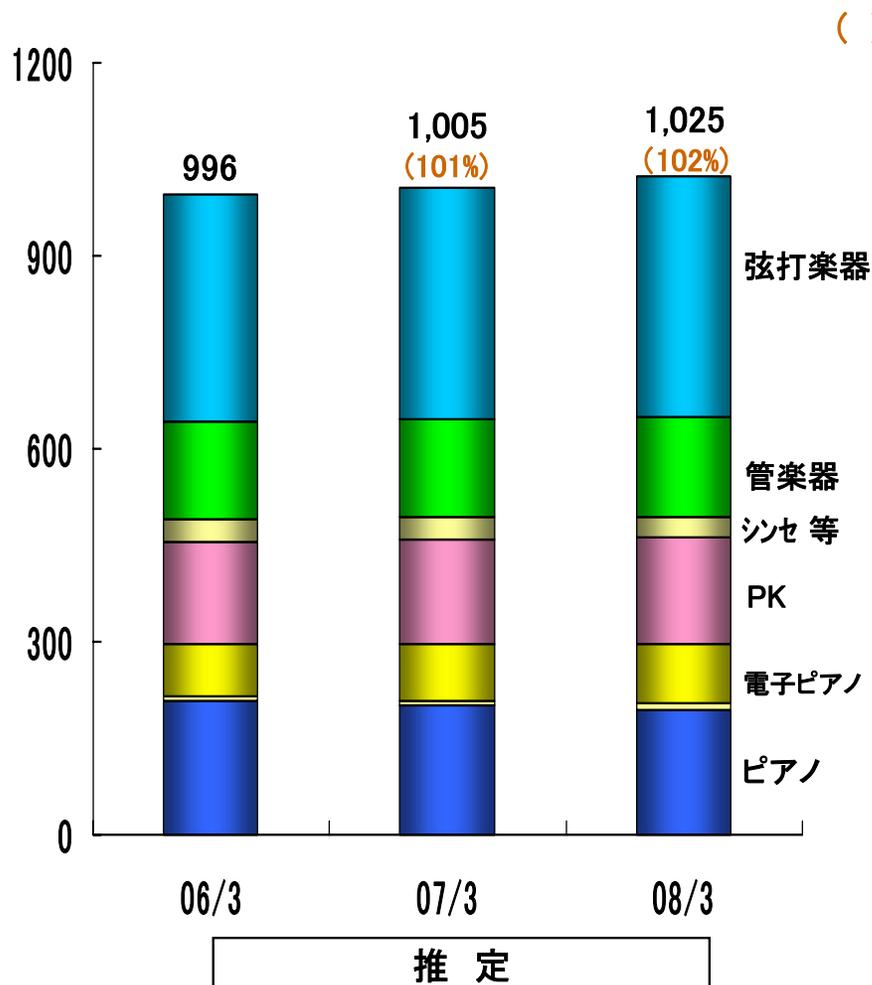


その他地域楽器市場推移



その他地域楽器市場卸売上高推移
 <カテゴリー別(除PA)>

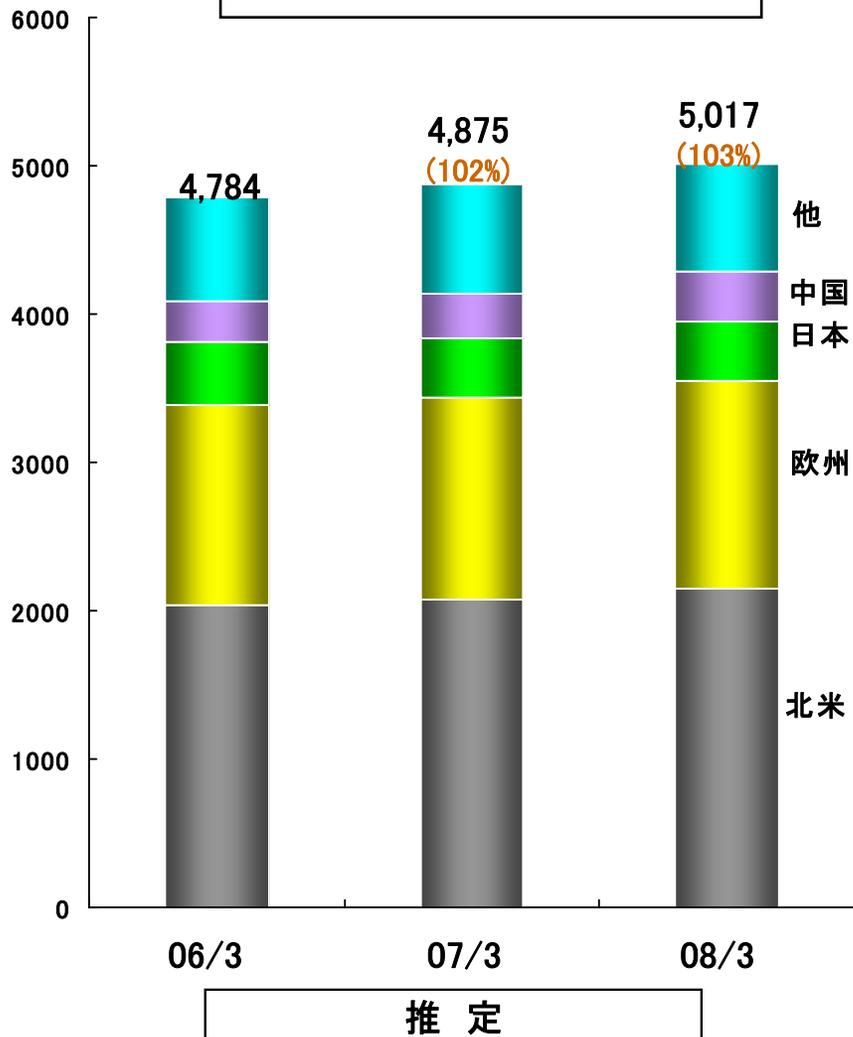
ヤマハ卸ベース売上高(除PA)



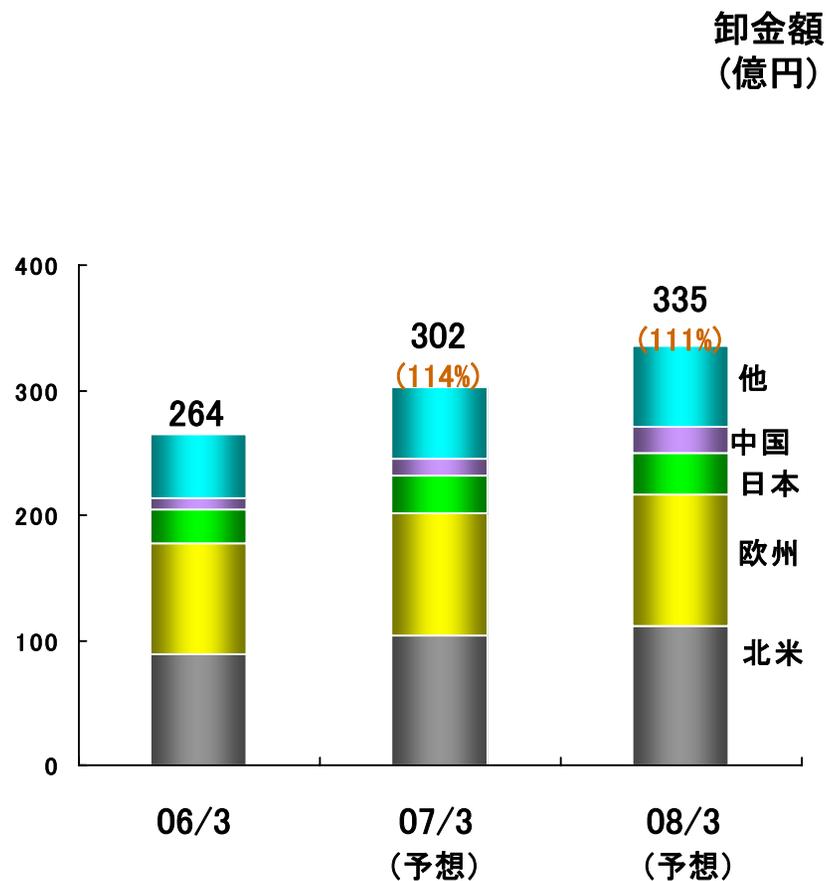
世界PA市場推移



PA世界市場卸売上高推移



ヤマハ卸ベース売上高



ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム+アンプ・レシーバー)

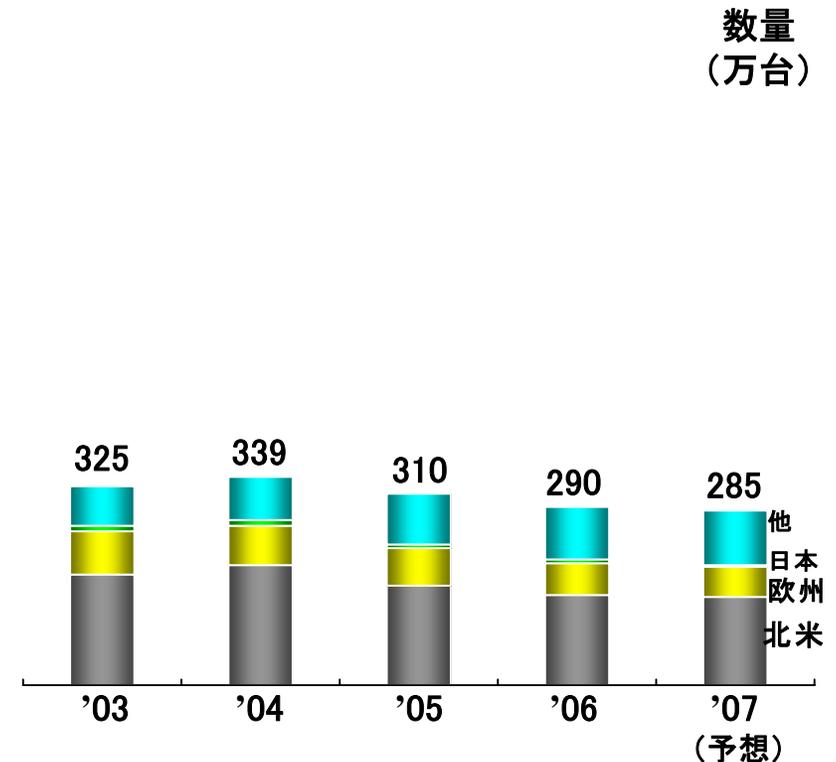
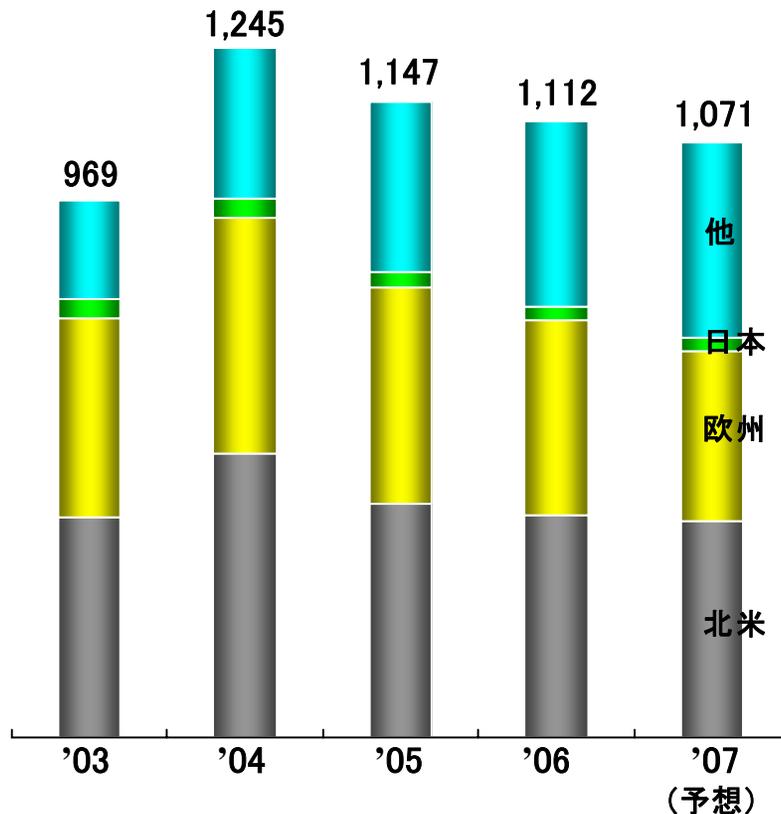


<ホームシアターシステム>

- ・世界市場は欧米中心に減少傾向 (1,000万台へ)
- ・北米:HTiBが年率10%の減少(DVD内蔵型は横ばい)
- ・欧州:DVD内蔵型、HTiBとも10%強の減少見通し
- ・日本:DVD内蔵型が大幅に減少する見通し
- ・その他:引き続きアジア、中・東欧市場で成長継続

<AVアンプ・レシーバー>

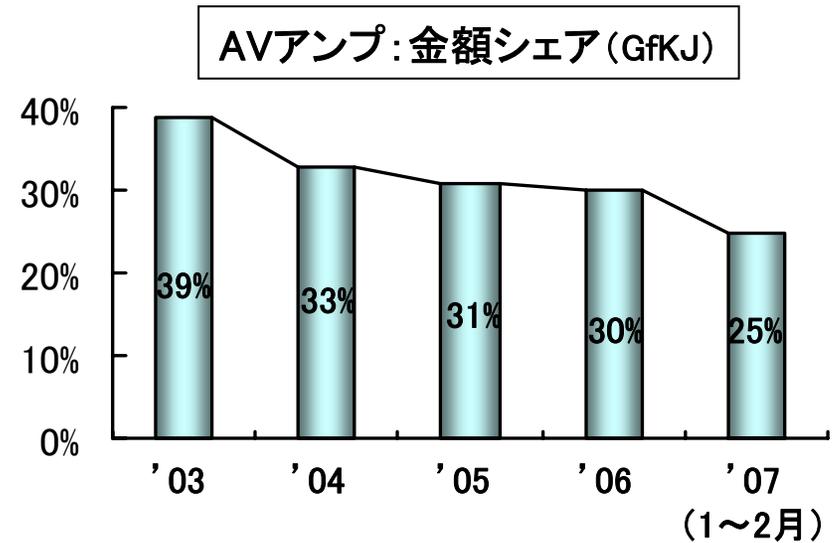
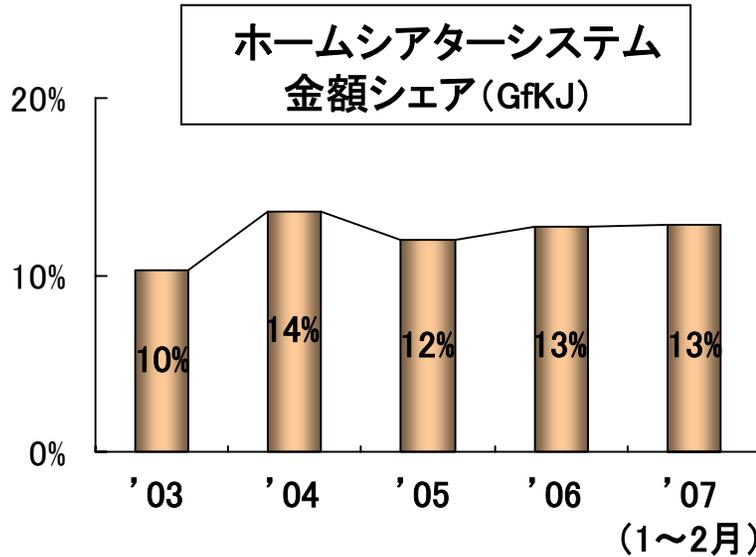
- ・北米:07年は対前年ほぼ横ばいの見通しで復調傾向。
廉価品と高級品の二極化の動き
- ・欧州:市場は対前年10%以上の縮小
- ・日本:07年は対前年20%を超える減少見通し
- ・アジア、中国、東欧、ロシアで低価格品中心に市場拡大



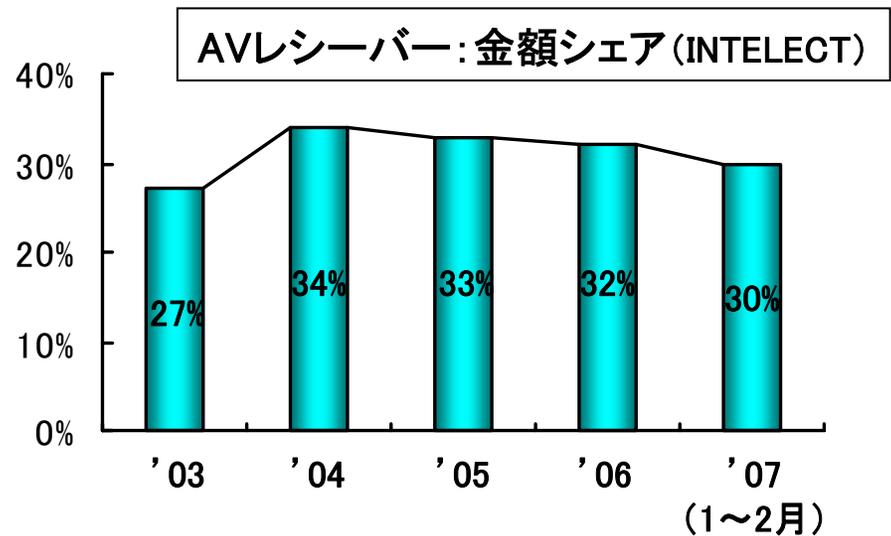
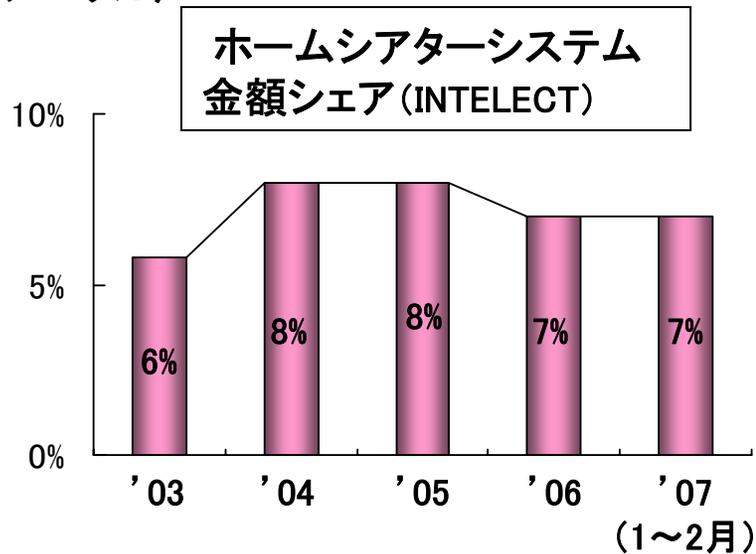
AV マーケットシェア



〈日本〉



〈アメリカ〉



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。